

佐川町男女共同参画に関する住民意識調査 及び事業所実態調査

結果概要

(1) 男女共同参画に関する住民意識調査

調査対象 町内在住の満18歳以上の男女

配布数 1,000件

有効回答数 381件(女性213件、男性162件、無回答6件)

有効回収率 38.1%

(2) 男女共同参画に関する事業所実態調査

調査対象 町内に事業所を有する企業・事業所

配布数 100件

有効回答数 57件

有効回収率 57.0%

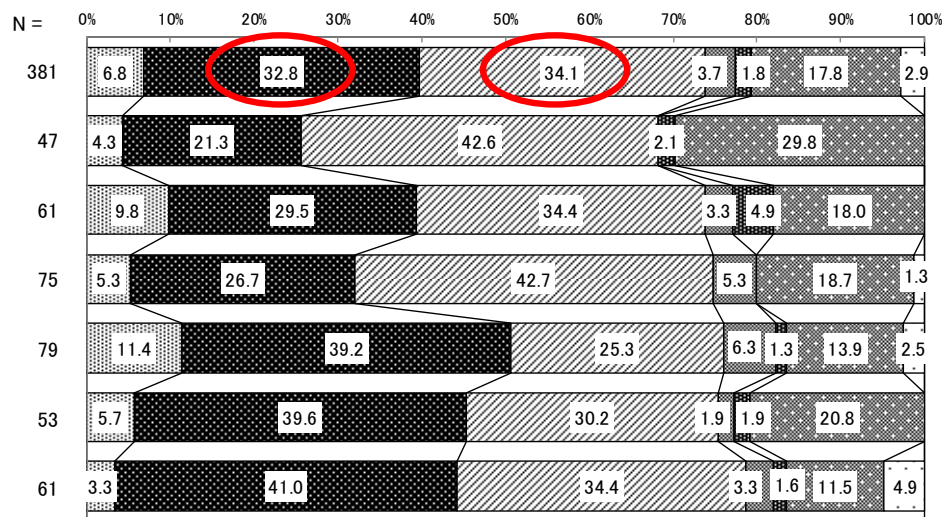
『平等』と『男性優遇』が同程度

①家庭生活では、全体で「平等になっている」が34.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は32.8%である。

②職場では、全体で「平等になっている」が31.5%と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は31.0%である。

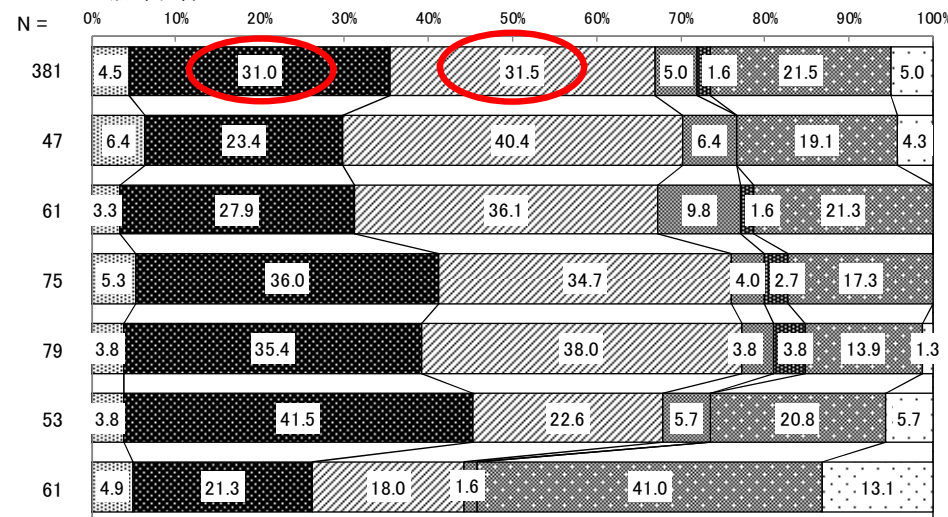
問9 男女の地位①家庭生活では[%]

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
☐ 平等になっている
☐ 女性の方が非常に優遇されている
☐ 無回答
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
☐ わからない



問9 男女の地位②職場では[%]

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
☐ 平等になっている
☐ 女性の方が非常に優遇されている
☐ 無回答
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
☐ わからない



問9. ①家庭生活では

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	23	137	137	13	3	65	21
	100.0	5.8	34.3	34.3	3.3	0.8	16.3	5.3
今回	381	26	125	130	14	7	68	11
	100.0	6.8	32.8	34.1	3.7	1.8	17.8	2.9

問9. ②職場では

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	19	124	94	9	0	112	41
	100.0	4.8	31.1	23.6	2.3	0.0	28.1	10.3
今回	381	17	118	120	19	6	82	19
	100.0	4.5	31.0	31.5	5.0	1.6	21.5	5.0

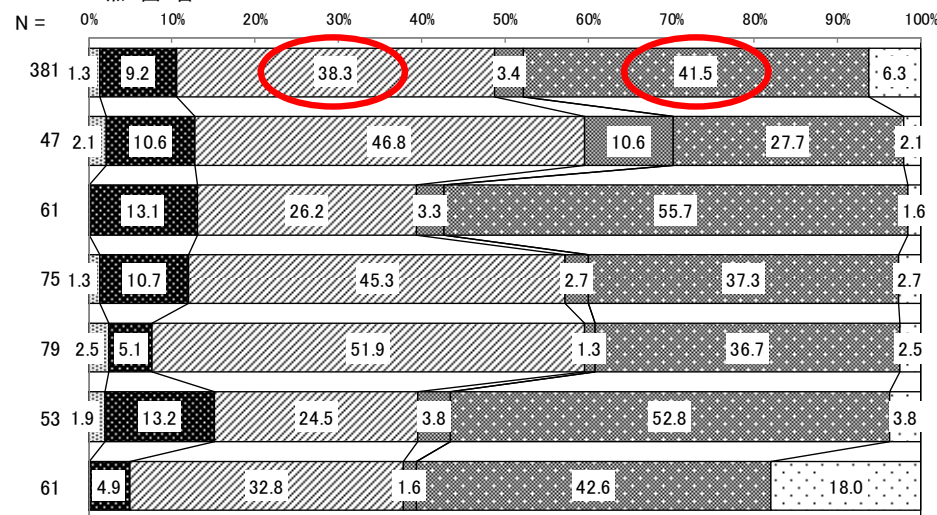
『平等』が多く回答されている

③学校教育の場では、全体で「平等になっている」が38.3%と多いが、「わからない」も41.5%回答されている。

④地域活動の中では、全体で「平等になっている」が33.9%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は23.6%である。

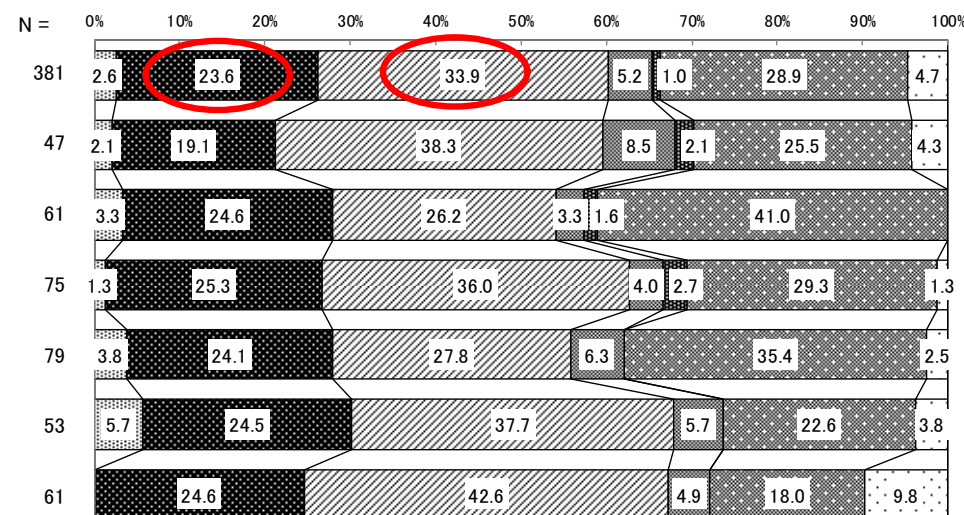
問9 男女の地位③学校教育の場では[%]

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
☐ 平等になっている
☐ 女性の方が非常に優遇されている
☐ 無回答
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
☐ わからない



問9 男女の地位④地域活動の中では[%]

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
☐ 平等になっている
☐ 女性の方が非常に優遇されている
☐ 無回答
- ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている
☐ わからない



問9. ③学校教育の場では

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	7	26	166	9	0	147	44
	100.0	1.8	6.5	41.6	2.3	0.0	36.8	11.0
今回	381	5	35	146	13	-	158	24
	100.0	1.3	9.2	38.3	3.4	-	41.5	6.3

問9. ④地域活動の中では

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	11	102	125	11	0	112	38
	100.0	2.8	25.6	31.3	2.8	0.0	28.1	9.5
今回	381	10	90	129	20	4	110	18
	100.0	2.6	23.6	33.9	5.2	1.0	28.9	4.7

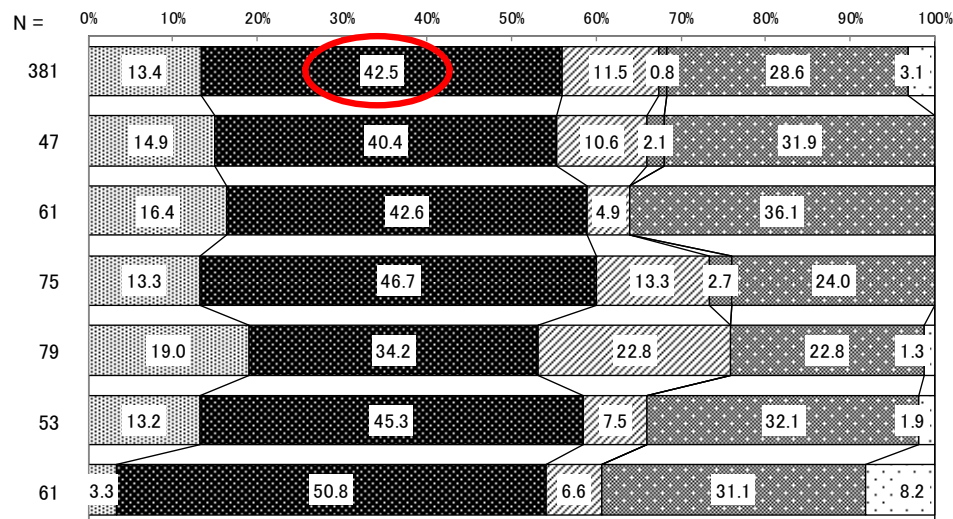
どちらも『男性優遇』が多い

⑤議会や政治の場では、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.5%と多い。

⑥法律や制度の上では、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.4%、「平等になっている」は27.6%である。

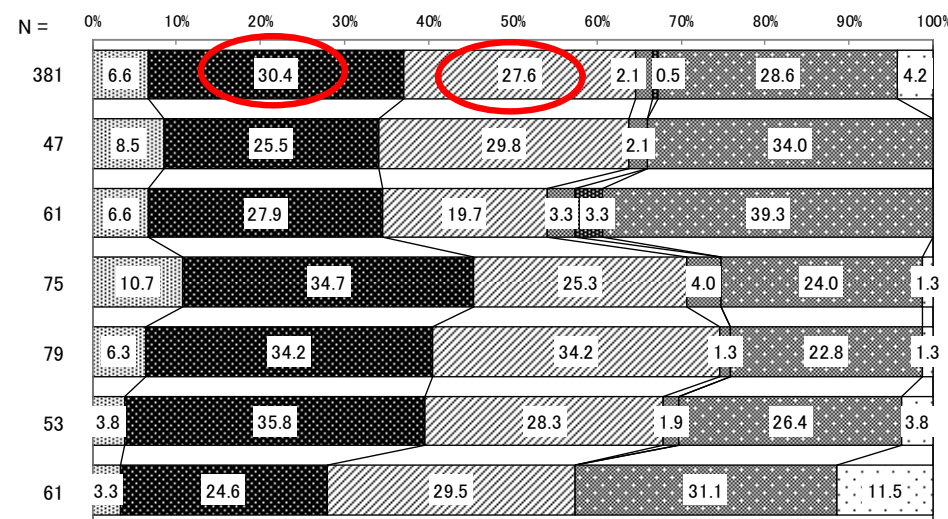
問9 男女の地位⑤議会や政治の場では[%]

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ 平等になっている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



問9 男女の地位⑥法律や制度の上では[%]

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ 平等になっている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



問9. ⑤議会や政治の場では

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	49	151	55	1	0	108	35
	100.0	12.3	37.8	13.8	0.3	0.0	27.1	8.8
今回	381	51	162	44	3	-	109	12
	100.0	13.4	42.5	11.5	0.8	-	28.6	3.1

問9. ⑥法律や制度の上では

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	24	103	128	14	1	95	34
	100.0	6.0	25.8	32.1	3.5	0.3	23.8	8.5
今回	381	25	116	105	8	2	109	16
	100.0	6.6	30.4	27.6	2.1	0.5	28.6	4.2

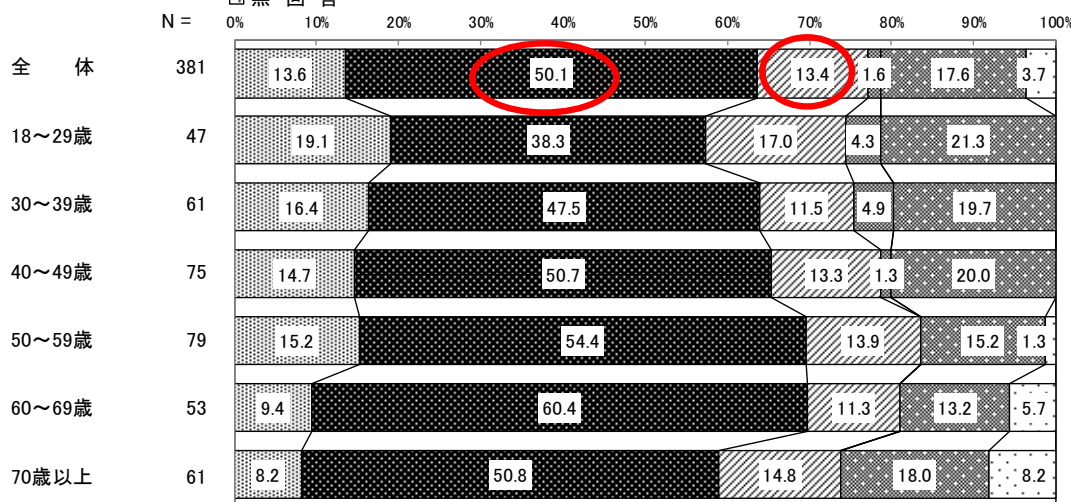
社会全体では『男性優遇』が多い

⑦社会通念やしきたり・慣習では、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が50.1%と半数を占め、「平等になっている」は13.4%である。

⑧社会全体としては、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が51.4%と半数以上を占め、「平等になっている」は16.3%である。

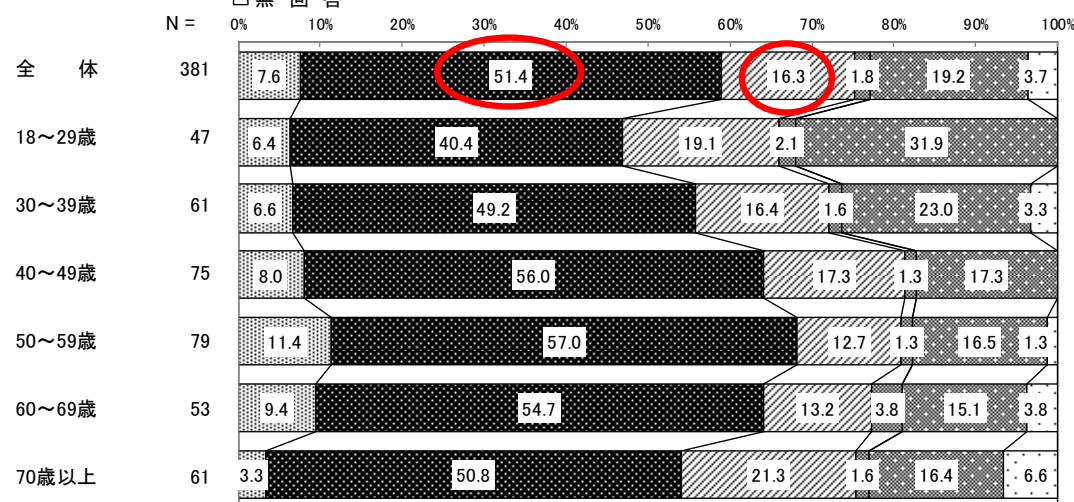
問9 男女の地位⑦社会通念やしきたり・慣習では[%]

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
☐ 平等になっている
☐ 女性の方が非常に優遇されている
☐ 無回答
- ☒ どちらかといえば男性の方が優遇されている
☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている
☐ わからない



問9 男女の地位⑧社会全体としては[%]

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
☐ 平等になっている
☐ 女性の方が非常に優遇されている
☐ 無回答
- ☒ どちらかといえば男性の方が優遇されている
☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている
☐ わからない



問9. ⑦社会通念やしきたり・慣習では

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	42	195	56	9	0	67	30
	100.0	10.5	48.9	14.0	2.3	0.0	16.8	7.5
今回	381	52	191	51	6	-	67	14
	100.0	13.6	50.1	13.4	1.6	-	17.6	3.7

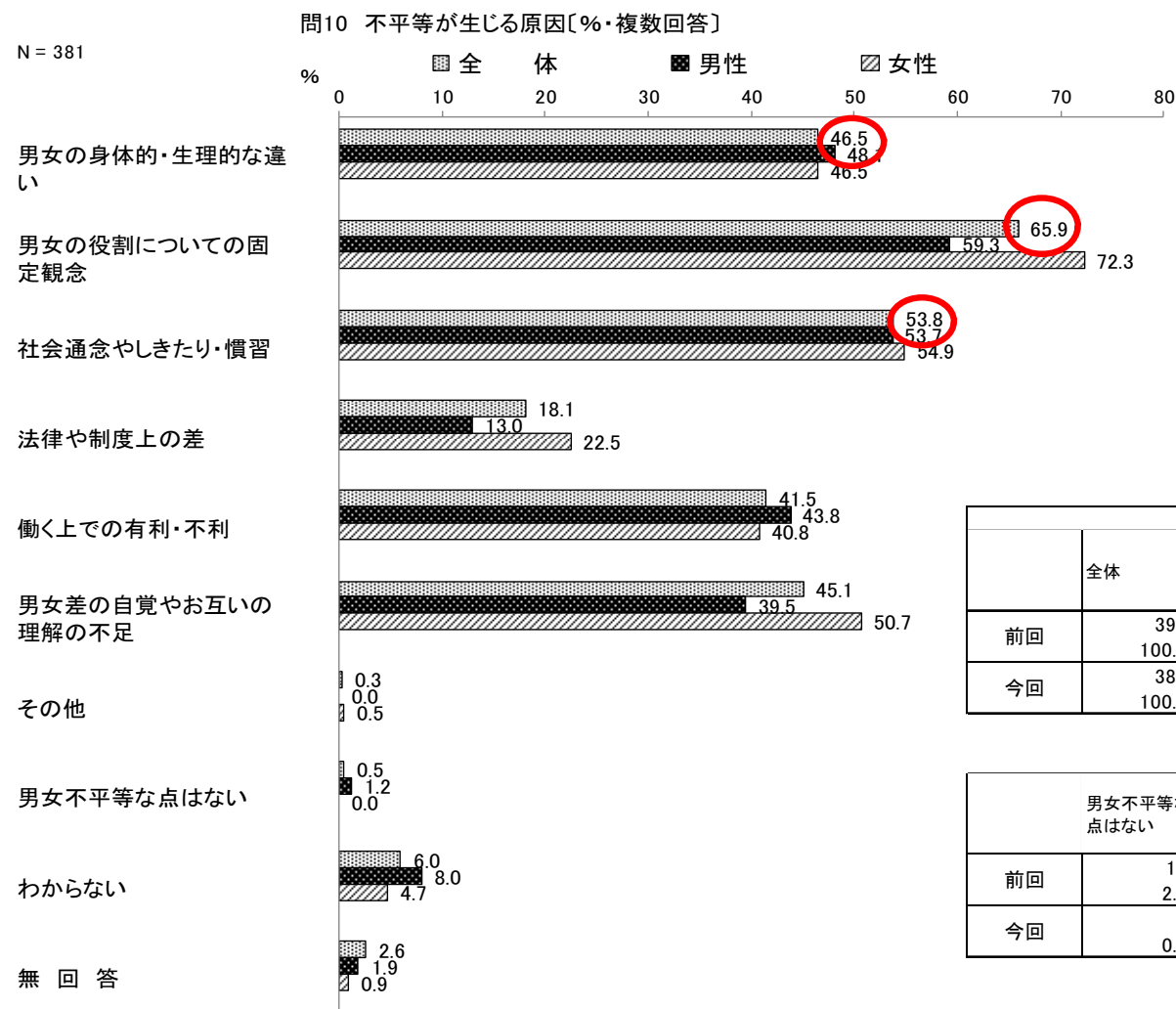
問9. ⑧社会全体としては

	全体	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
前回	399	24	187	76	13	1	70	28
	100.0	6.0	46.9	19.0	3.3	0.3	17.5	7.0
今回	381	29	196	62	7	-	73	14
	100.0	7.6	51.4	16.3	1.8	-	19.2	3.7

「男女の役割についての固定観念」が多い

全体では、「男女の役割についての固定観念」が65.9%と最も多く、「社会通念やしきたり・慣習」が53.8%、「男女の身体的・生理的な違い」が46.5%で続いている。

男女別では、「男女の役割についての固定観念」、「社会通念やしきたり・慣習」、「法律や制度上の差」と「男女差の自覚やお互いの理解の不足」は女性の方が多く回答されている。



問10. 男女不平等が生じる原因								
	全体	男女の身体的・生理的な違い	男女の役割についての固定観念	社会通念やしきたり・慣習	法律や制度上の差	働く上での有利・不利	男女差の自覚やお互いの理解の不足	その他
前回	399 100.0	181 45.4	227 56.9	208 52.1	62 15.5	163 40.9	146 36.6	4 1.0
今回	381 100.0	177 46.5	251 65.9	205 53.8	69 18.1	158 41.5	172 45.1	1 0.3

	男女不平等な点はない	わからない	無回答
前回	11 2.8	36 9.0	12 3.0
今回	2 0.5	23 6.0	10 2.6

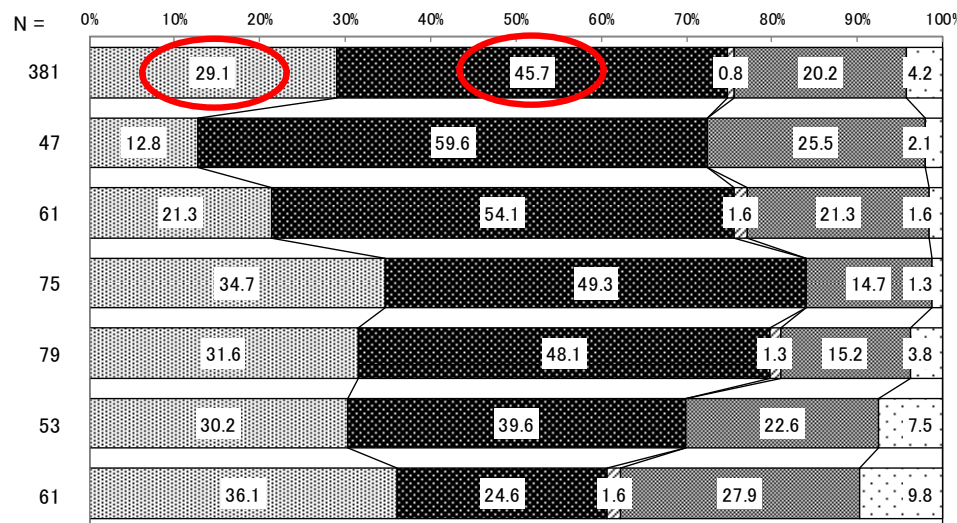
①では『平等』が多い

①募集・採用では、全体で「ほぼ平等になっている」が45.7%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は29.1%である。

②賃金・昇給では、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.2%と多く、「ほぼ平等になっている」は36.7%である。

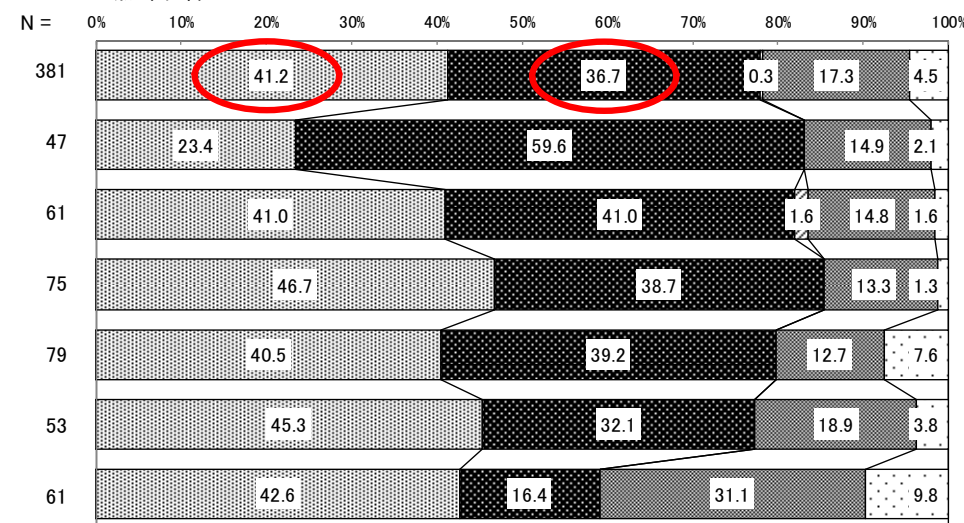
問13 職場での男女の扱い①募集・採用[%]

☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ☒ ほぼ平等になっている
 ☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ☐ わからない
 ☐ 無回答



問13 職場での男女の扱い②賃金・昇給[%]

☒ どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ☒ ほぼ平等になっている
 ☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ☐ わからない
 ☐ 無回答



問13. ①募集・採用

	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	119	152	9	87	32
	100.0	29.8	38.1	2.3	21.8	8.0
今回	381	111	174	3	77	16
	100.0	29.1	45.7	0.8	20.2	4.2

問13. ②賃金・昇給

	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	178	96	0	85	40
	100.0	44.6	24.1	0.0	21.3	10.0
今回	381	157	140	1	66	17
	100.0	41.2	36.7	0.3	17.3	4.5

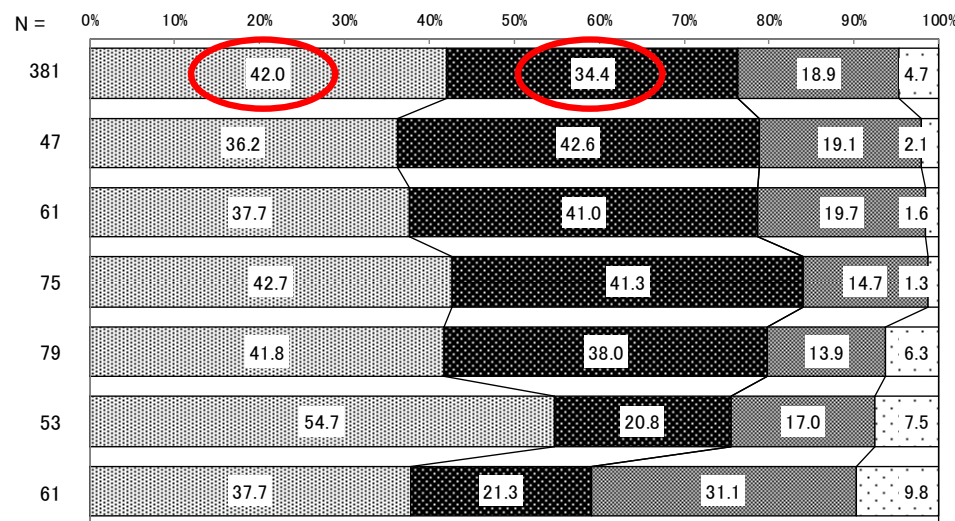
③では『男性優遇』が多い

③昇進や昇格では、全体で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.0%と多く、「ほぼ平等になっている」は34.4%である。

④仕事の内容では、全体で「ほぼ平等になっている」が46.5%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は26.0%である。

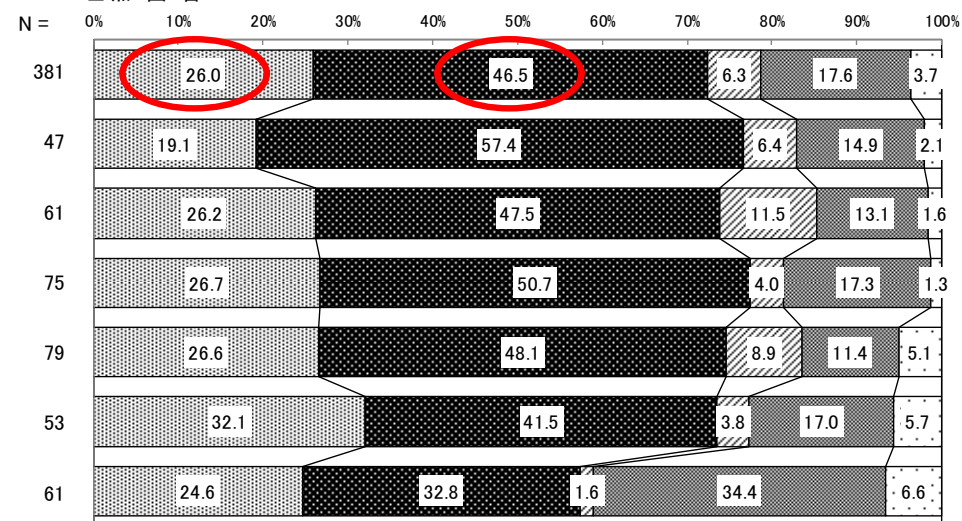
問13 職場での男女の扱い③昇進や昇格[%]

■ どちらかといえば男性の方が優遇されている ■ ほぼ平等になっている
 ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている ■ わからない
 □ 無回答



問13 職場での男女の扱い④仕事の内容[%]

■ どちらかといえば男性の方が優遇されている ■ ほぼ平等になっている
 ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている ■ わからない
 □ 無回答



問13. ③昇進や昇格

	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	190	77	1	92	39
	100.0	47.6	19.3	0.3	23.1	9.8
今回	381	160	131	-	72	18
	100.0	42.0	34.4	-	18.9	4.7

問13. ④仕事の内容

	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	105	130	21	104	39
	100.0	26.3	32.6	5.3	26.1	9.8
今回	381	99	177	24	67	14
	100.0	26.0	46.5	6.3	17.6	3.7

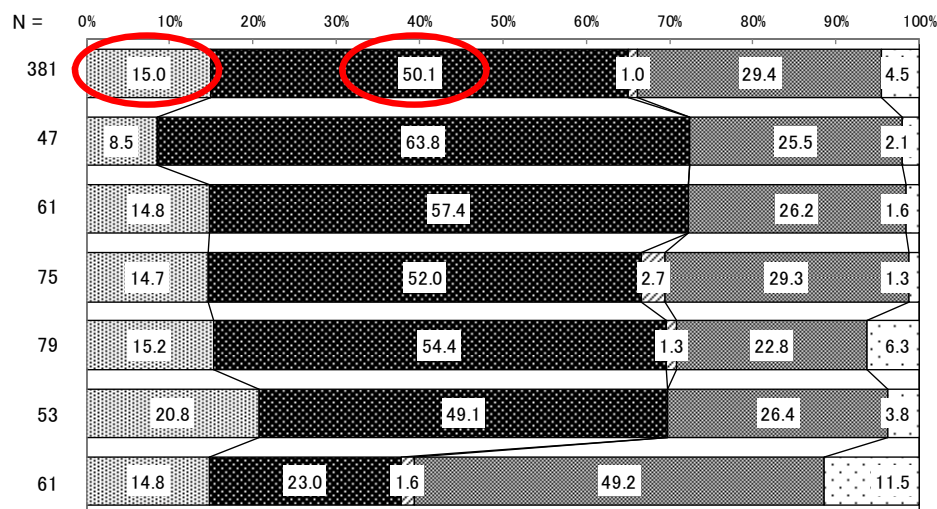
どちらも『平等』が多い

⑤退職や解雇では、全体で「ほぼ平等になっている」が50.1%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は15.0%である。

⑥能力評価・査定では全体で「ほぼ平等になっている」が47.0%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は24.7%である。

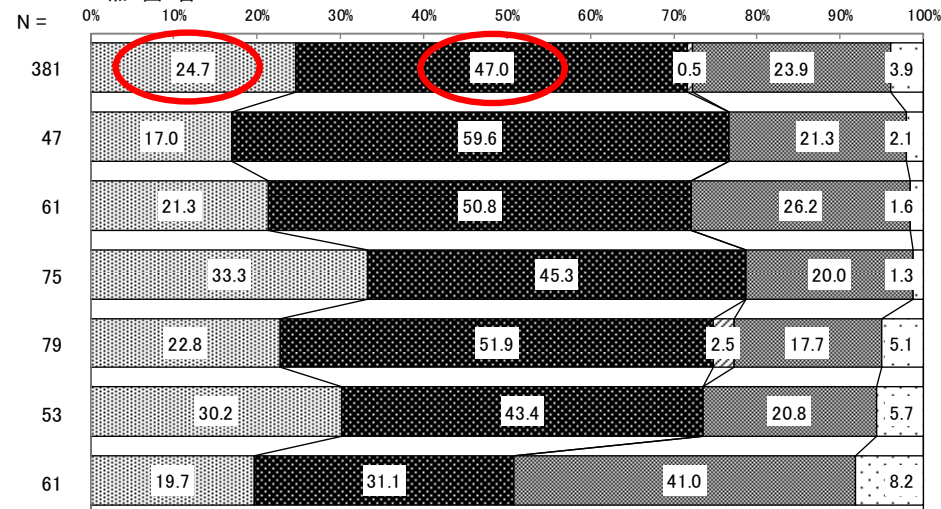
問13 職場での男女の扱い⑤退職や解雇[%]

☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている ☒ ほぼ平等になっている
☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている ☐ わからない
☐ 無回答



問13 職場での男女の扱い⑥能力評価・査定[%]

☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている ☒ ほぼ平等になっている
☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている ☐ わからない
☐ 無回答



問13. ⑤退職や解雇

	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	80	139	5	128	47
	100.0	20.1	34.8	1.3	32.1	11.8
今回	381	57	191	4	112	17
	100.0	15.0	50.1	1.0	29.4	4.5

問13. ⑥能力評価・査定

	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	107	145	1	99	47
	100.0	26.8	36.3	0.3	24.8	11.8
今回	381	94	179	2	91	15
	100.0	24.7	47.0	0.5	23.9	3.9

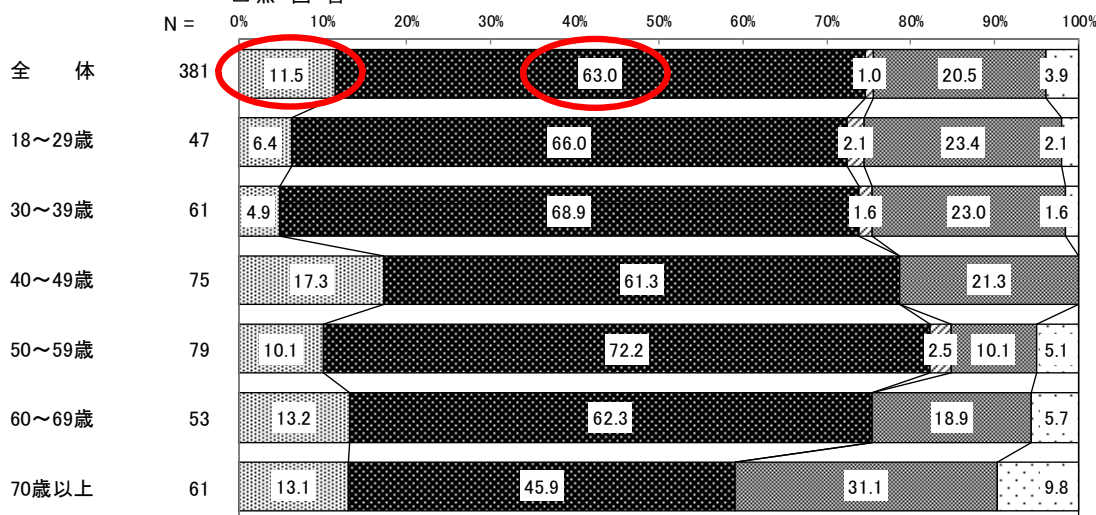
どちらも『平等』が多い

⑦教育や研修では、全体で「ほぼ平等になっている」が63.0%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は11.5%である。「わからない」も20.5%回答されている。

⑧有給休暇の取得では、全体で「ほぼ平等になっている」が61.9%と多く6割を超えている。

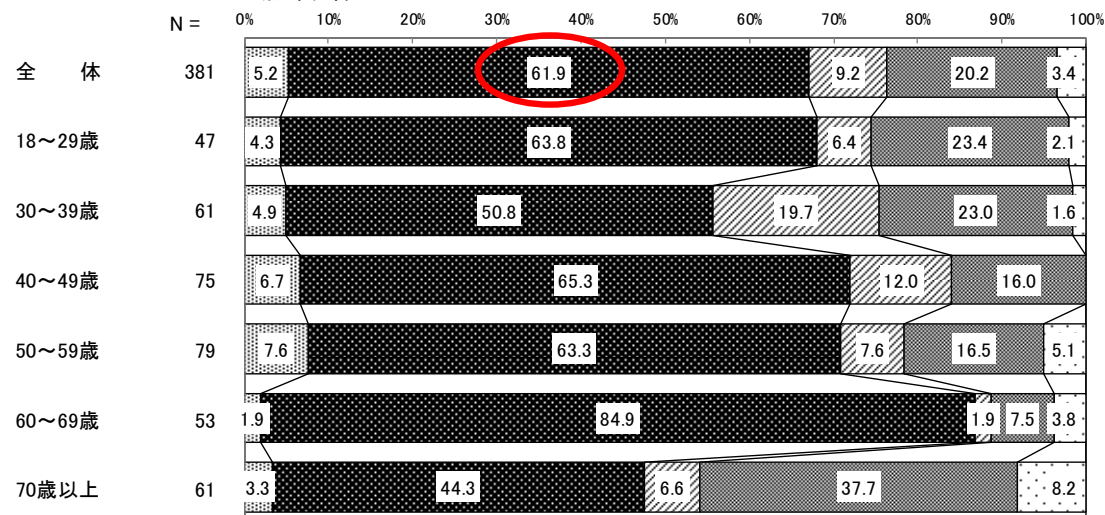
問13 職場での男女の扱い⑦教育や研修[%]

■ どちらかといえば男性の方が優遇されている ■ ほぼ平等になっている
 ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている ■ わからない
 □ 無回答



問13 職場での男女の扱い⑧有給休暇の取得[%]

■ どちらかといえば男性の方が優遇されている ■ ほぼ平等になっている
 ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている ■ わからない
 □ 無回答



問13. ⑦教育訓練や研修

	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	49	193	2	104	51
	100.0	12.3	48.4	0.5	26.1	12.8
今回	381	44	240	4	78	15
	100.0	11.5	63.0	1.0	20.5	3.9

問13. ⑧有給休暇の取得

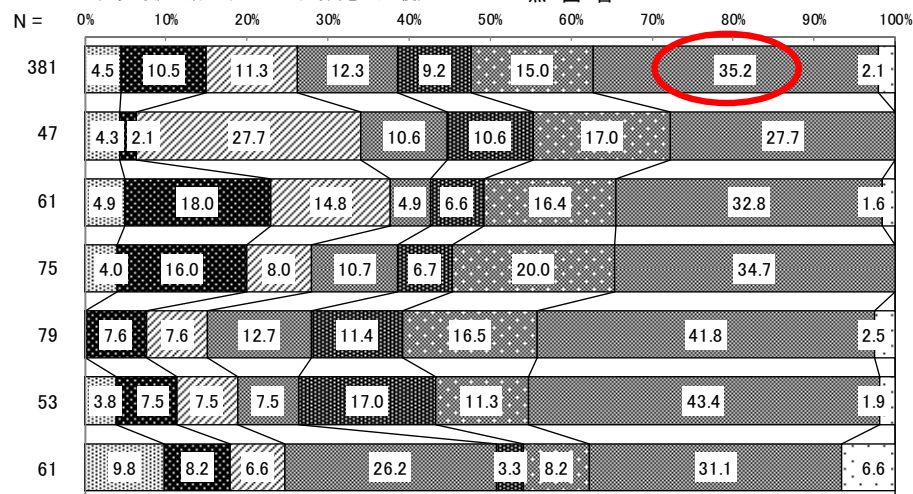
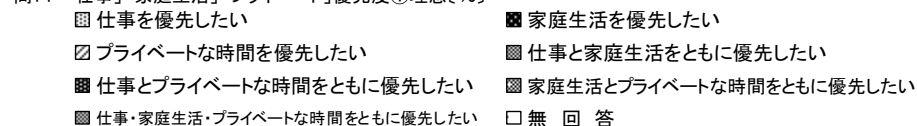
	全体	どちらかといえ ば男性のほう が優遇されて いる	ほぼ平等に なっている	どちらかといえ ば女性のほう が優遇されて いる	わからない	無回答
前回	399	15	190	49	99	46
	100.0	3.8	47.6	12.3	24.8	11.5
今回	381	20	236	35	77	13
	100.0	5.2	61.9	9.2	20.2	3.4

現実の優先度は『仕事』が多い

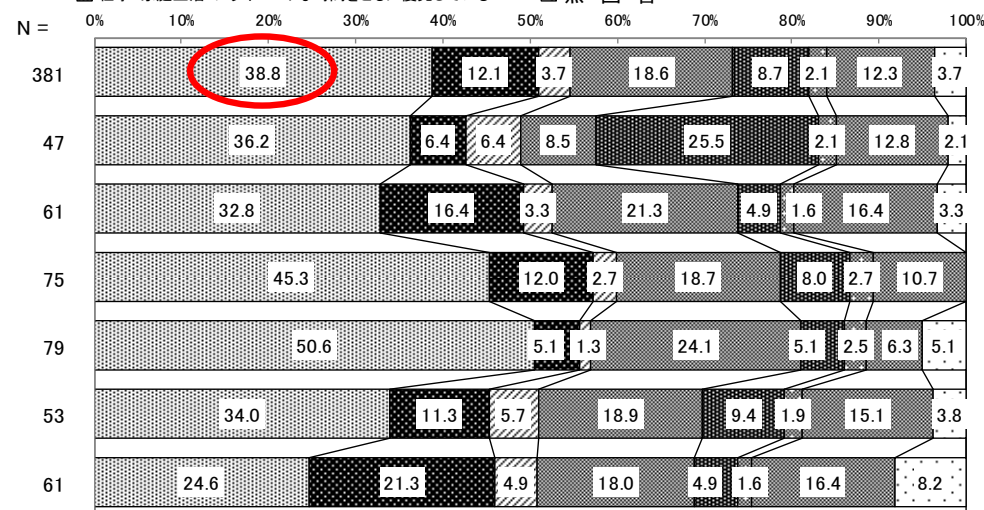
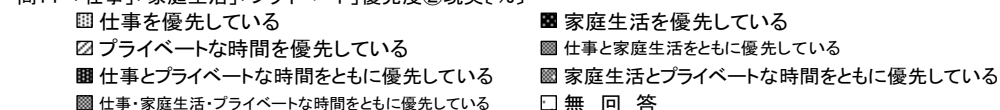
①希望する（理想とする）優先度では、全体で「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい」が35.2%、「家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい」は15.0%、「仕事と家庭生活をともに優先したい」は12.3%である。

②実際の（現実の）優先度では、全体で「仕事を優先している」が38.8%、「仕事と家庭生活をともに優先している」は18.6%、「仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先している」は12.3%である。

問14 「仕事」「家庭生活」「プライベート」優先度①理想[%]



問14 「仕事」「家庭生活」「プライベート」優先度②現実[%]



問14. ①希望する（理想とする）優先度

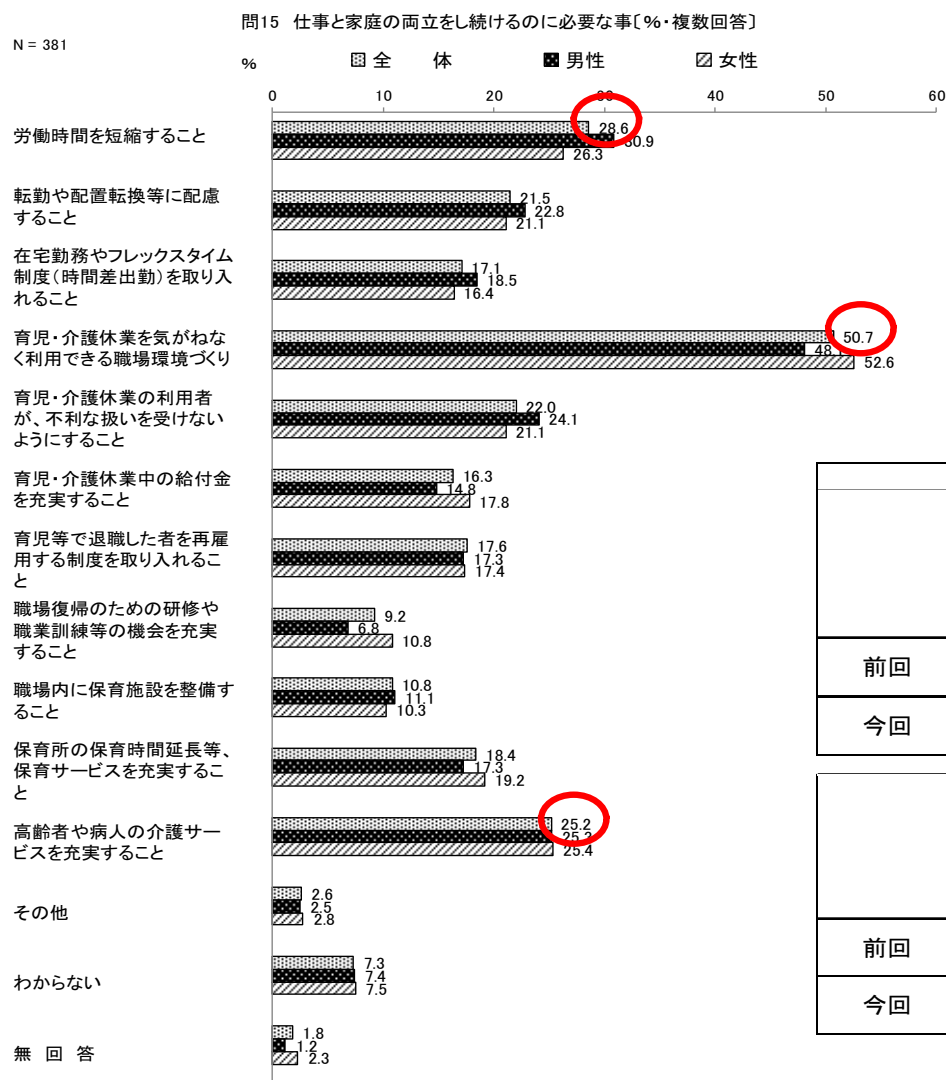
	全体	仕事を優先したい	家庭生活を優先したい	プライベートな時間を優先したい	仕事と家庭生活をともに優先したい	仕事とプライベートな時間をともに優先したい	家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい	仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい	無回答
前回	399	18	61	20	95	23	44	121	17
	100.0	4.5	15.3	5.0	23.8	5.8	11.0	30.3	4.3
今回	381	17	40	43	47	35	57	134	8
	100.0	4.5	10.5	11.3	12.3	9.2	15.0	35.2	2.1

問14. ②実際の（現実の）優先度

	全体	仕事を優先したい	家庭生活を優先したい	プライベートな時間を優先したい	仕事と家庭生活をともに優先したい	仕事とプライベートな時間をともに優先したい	家庭生活とプライベートな時間をともに優先したい	仕事・家庭生活・プライベートな時間をともに優先したい	無回答
前回	399	137	58	21	78	19	26	29	31
	100.0	34.3	14.5	5.3	19.5	4.8	6.5	7.3	7.8
今回	381	148	46	14	71	33	8	47	14
	100.0	38.8	12.1	3.7	18.6	8.7	2.1	12.3	3.7

「育児・介護休業を気がねなく利用できる職場環境づくり」が多い

全体では、「育児・介護休業を気がねなく利用できる職場環境づくり」が50.7%と最も多く、次いで「労働時間を短縮すること」が28.6%、「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」が25.2%と続いており、各項目の男女比はほぼ同程度となっている。



問15. 仕事と家庭の両立に必要と思うこと								
	全体	労働時間を短縮すること	転勤や配置転換などに配慮すること	在宅勤務やフレックスタイム制度(時間差出勤)を取り入れること	育児・介護休業を気がねなく利用できる職場環境づくり	育児・介護休業の利用者が、不利な扱いを受けないようにすること	育児・介護休業中の給付金を充実すること	育児などで退職した者を再雇用する制度を取り入れること
前回	399 100.0	91 22.8	79 19.8	60 15.0	195 48.9	94 23.6	56 14.0	103 25.8
今回	381 100.0	109 28.6	82 21.5	65 17.1	193 50.7	84 22.0	62 16.3	67 17.6

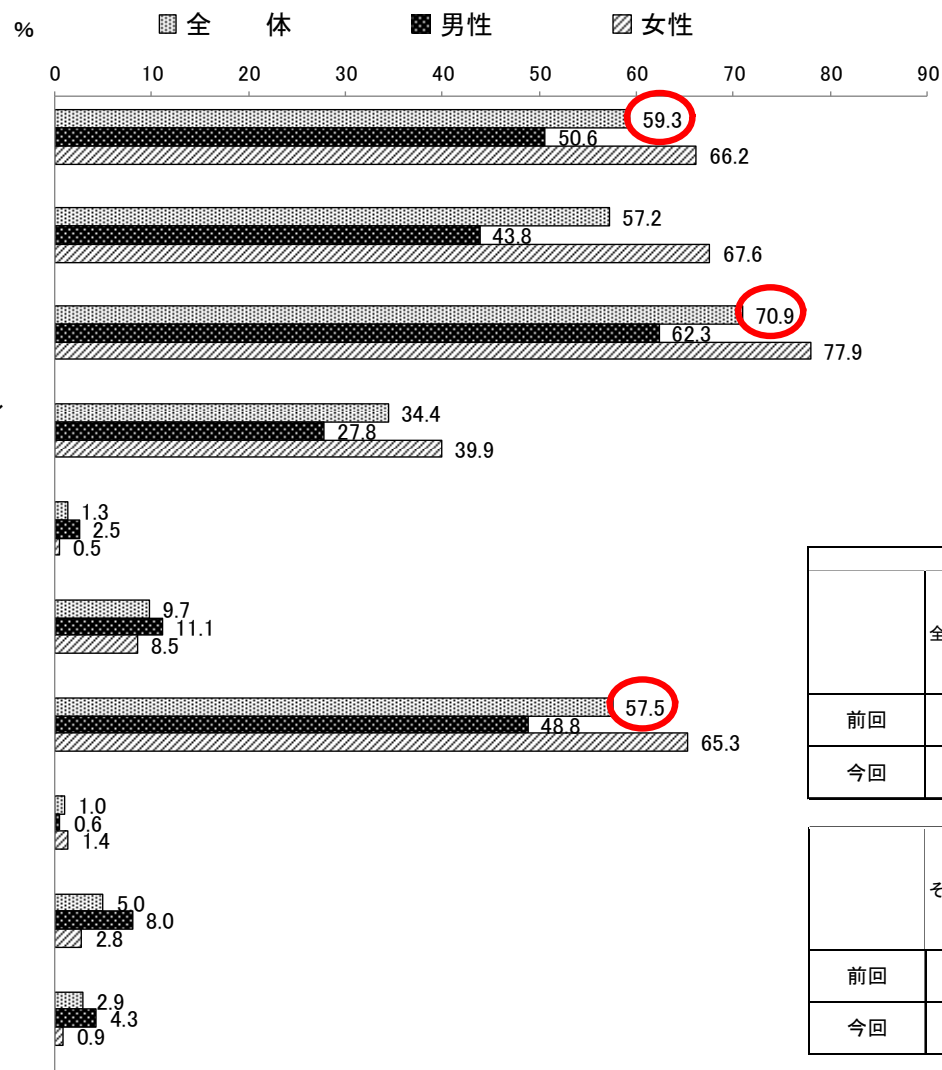
	職場復帰のための研修や職業訓練などの機会を充実すること	職場内に保育施設を整備すること	保育所の保育時間延長など、保育サービスを充実すること	高齢者や病人の介護サービスを充実すること	その他	わからない	無回答
前回	41 10.3	40 10.0	100 25.1	144 36.1	12 3.0	14 3.5	10 2.5
今回	35 9.2	41 10.8	70 18.4	96 25.2	10 2.6	28 7.3	7 1.8

「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が多い

全体では、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が70.9%と最も多く、次いで「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」は59.3%、「子どもの個性に応じて育てる」は57.5%である。

問18 子どもの育て方について〔%・複数回答〕

N = 381



問18. 子どもの育て方について

	全体	男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる	男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる	男女ともに、社会人として自立できるように育てる	男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる	男は外で働き、女は家庭を守るように育てる	男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	子どもの個性に応じて育てる
前回	399 100.0	259 64.9	267 66.9	327 82.0	175 43.9	13 3.3	94 23.6	244 61.2
今回	381 100.0	226 59.3	218 57.2	270 70.9	131 34.4	5 1.3	37 9.7	219 57.5

	その他	わからない	無回答
前回	2 0.5	6 1.5	7 1.8
今回	4 1.0	19 5.0	11 2.9

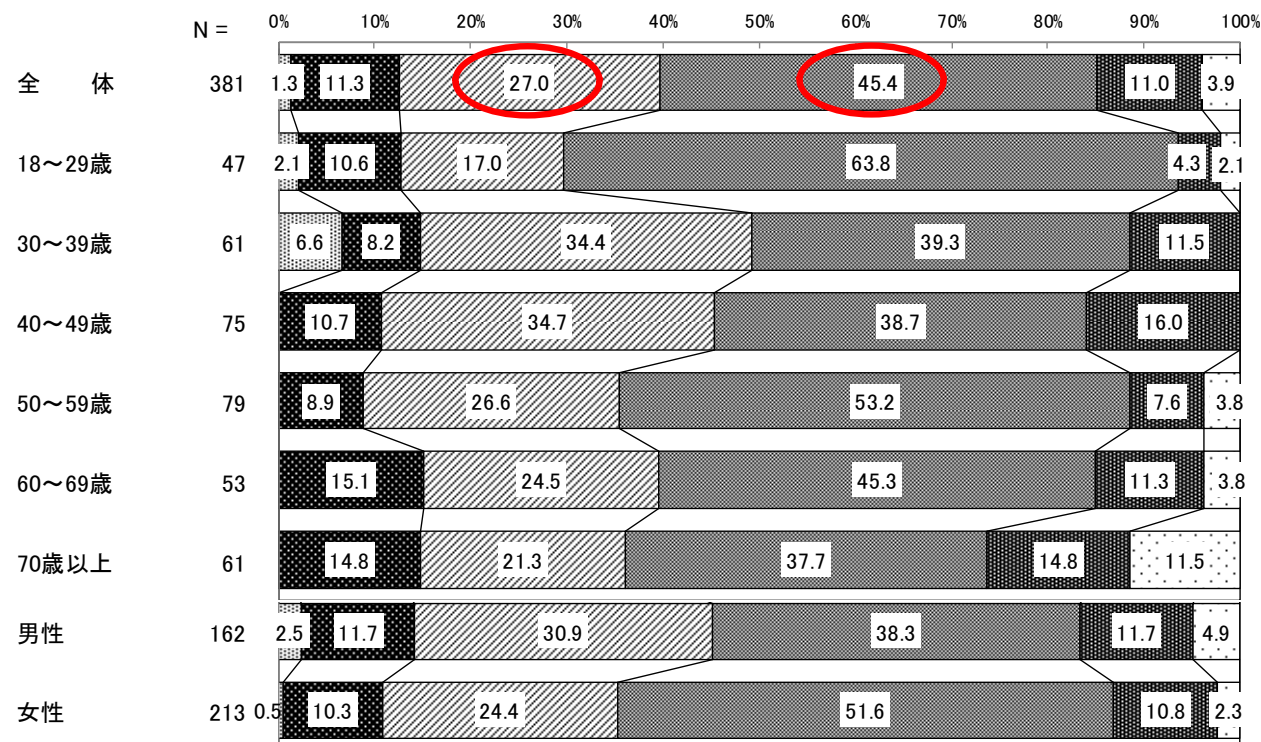
『反対』が多い

全体では、「反対」が45.4%、「どちらかといえば反対」は27.0%である。

性・年代別では、男性の18～29歳で「反対」が55.6%と多いが、30～39歳で「賛成」も15.0%回答されている。女性では18～29歳で「反対」が69.0%と多い。

問19 ②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである〔%〕

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無 回 答



問19. ②夫は外で働き、妻は家庭を守るべき

	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399 100.0	19 4.8	78 19.5	120 30.1	125 31.3	37 9.3	20 5.0
今回	381 100.0	5 1.3	43 11.3	103 27.0	173 45.4	42 11.0	15 3.9

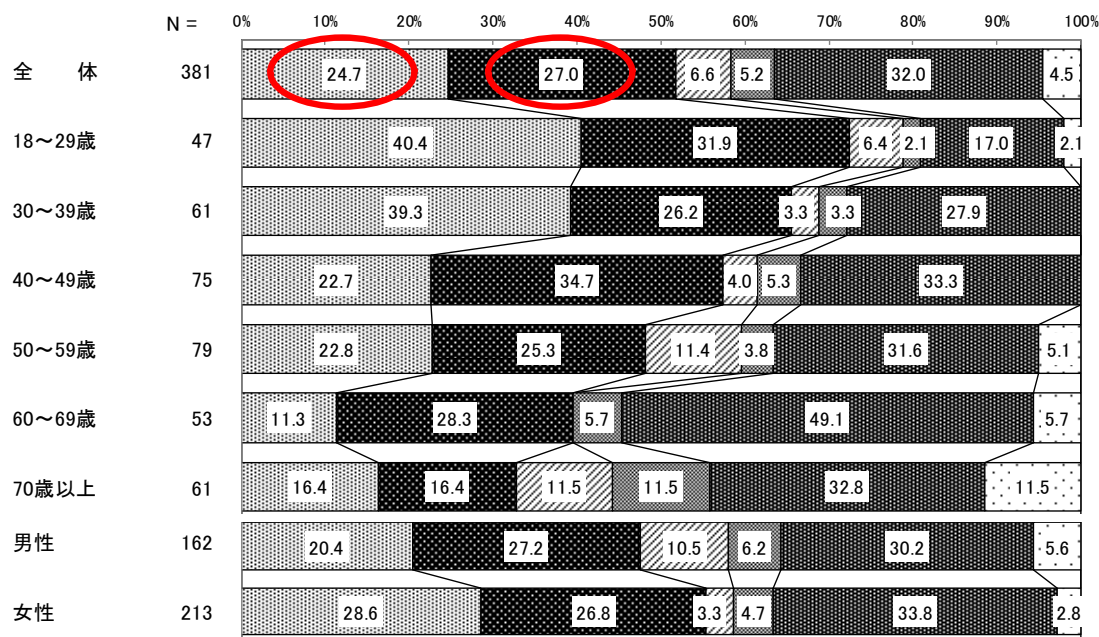
どちらも『賛成』が多い

⑥では、全体で「賛成」が24.7%、「どちらかといえば賛成」は27.0%である。

⑦では、「賛成」が47.0%と多く、「どちらかといえば賛成」は35.7%である。

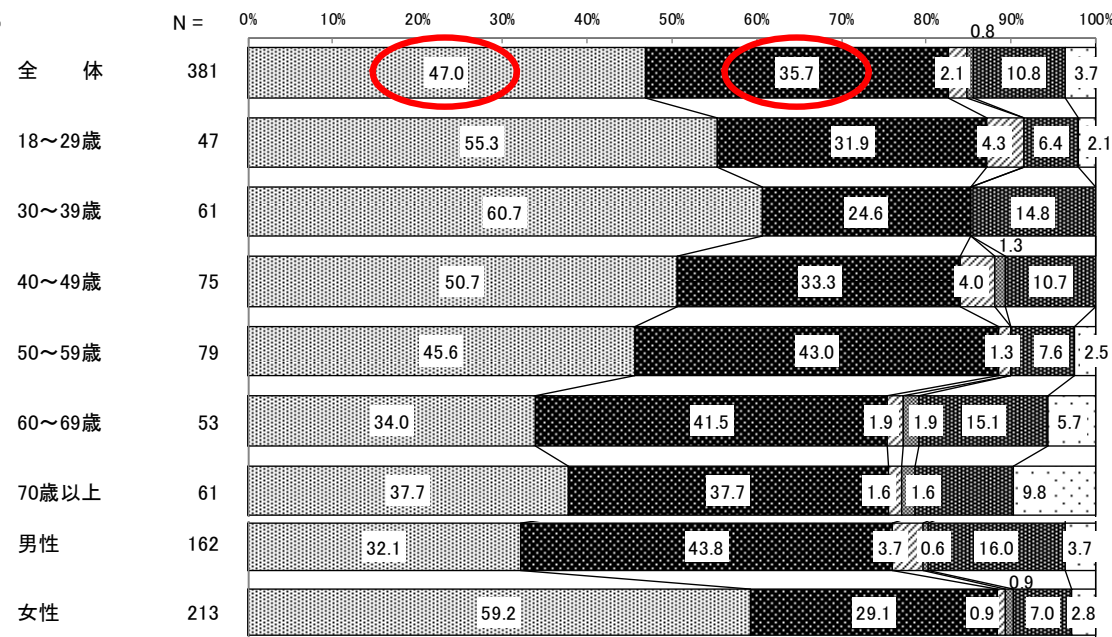
問19⑥未婚や晩婚化が進んでいるのは経済的な理由が大きい[%]

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 □ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無回答



問19 ⑦男性はもっと家事や育児等の家庭生活に参画すべき[%]

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 □ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない □ 無回答



問19. ⑥結婚しない人や晩婚化は、経済的な理由である

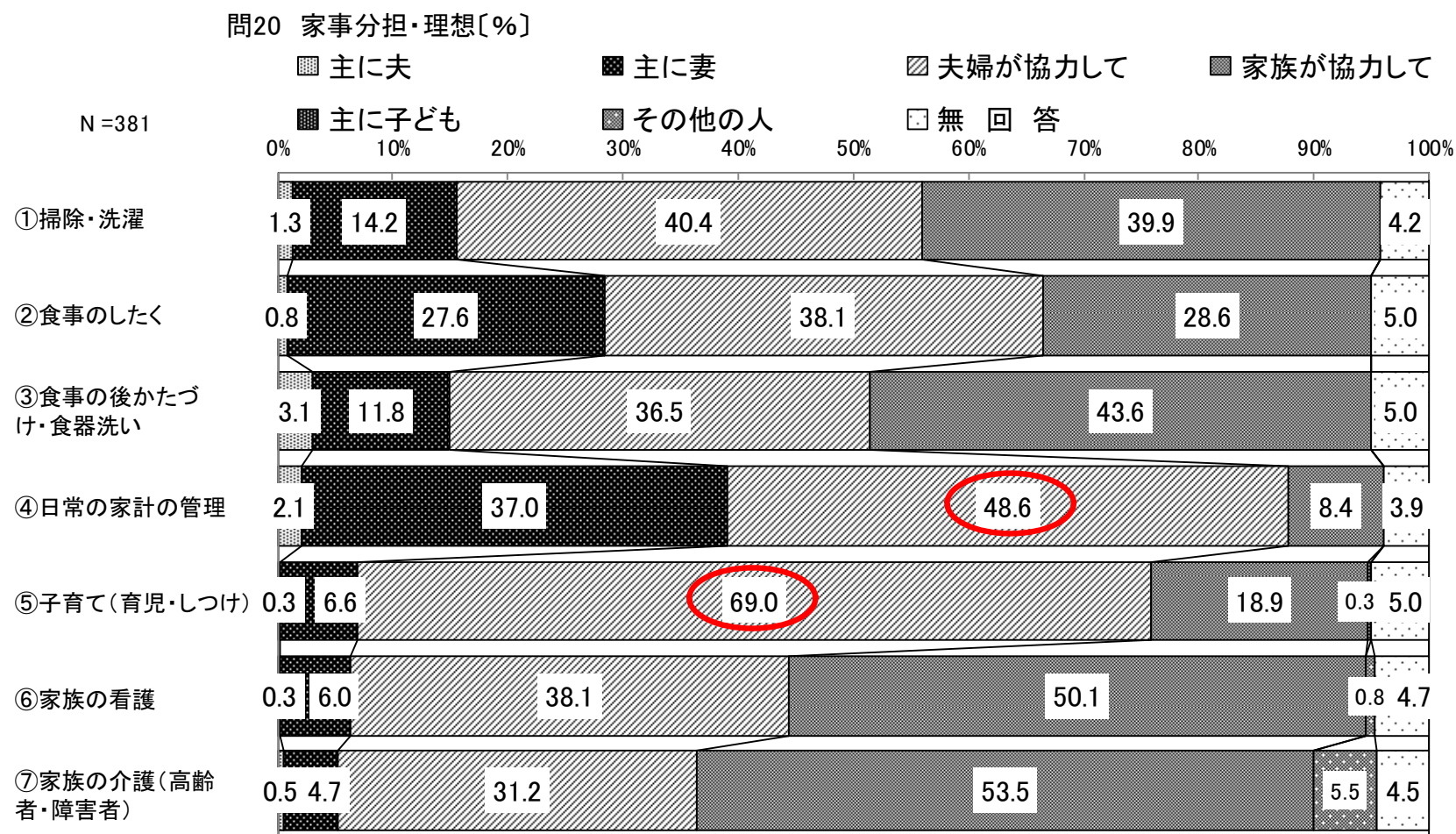
	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399	107	108	29	26	108	21
	100.0	26.8	27.1	7.3	6.5	27.1	5.3
今回	381	94	103	25	20	122	17
	100.0	24.7	27.0	6.6	5.2	32.0	4.5

問19. ⑦男性はもっと家庭生活に参画すべき

	全体	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
前回	399	169	171	11	1	28	19
	100.0	42.4	42.9	2.8	0.3	7.0	4.8
今回	381	179	136	8	3	41	14
	100.0	47.0	35.7	2.1	0.8	10.8	3.7

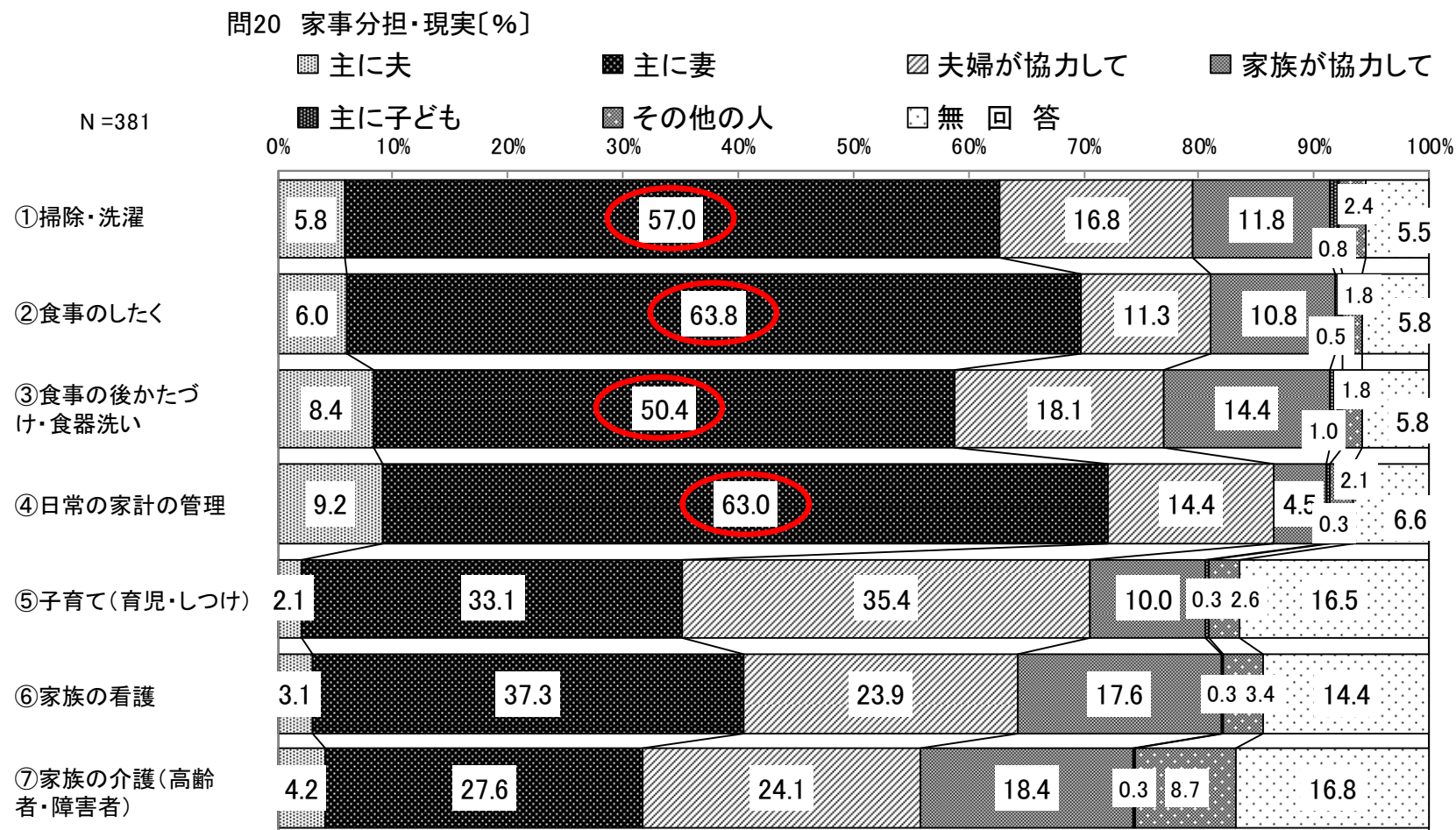
『子育て』の分担が求められている

全体では、夫婦で協力して分担したいものは「⑤子育て（育児・しつけ）」が69.0%と最も多く、次いで「④日常の家計の管理」は48.6%である。



日常の家事のほとんどを『妻』が行っている

全体では、「①掃除・洗濯」「②食事のしたく」「③食事の後かたづけ・食器洗い」「④日常の家計の管理」を妻が分担していると5～6割が回答している。

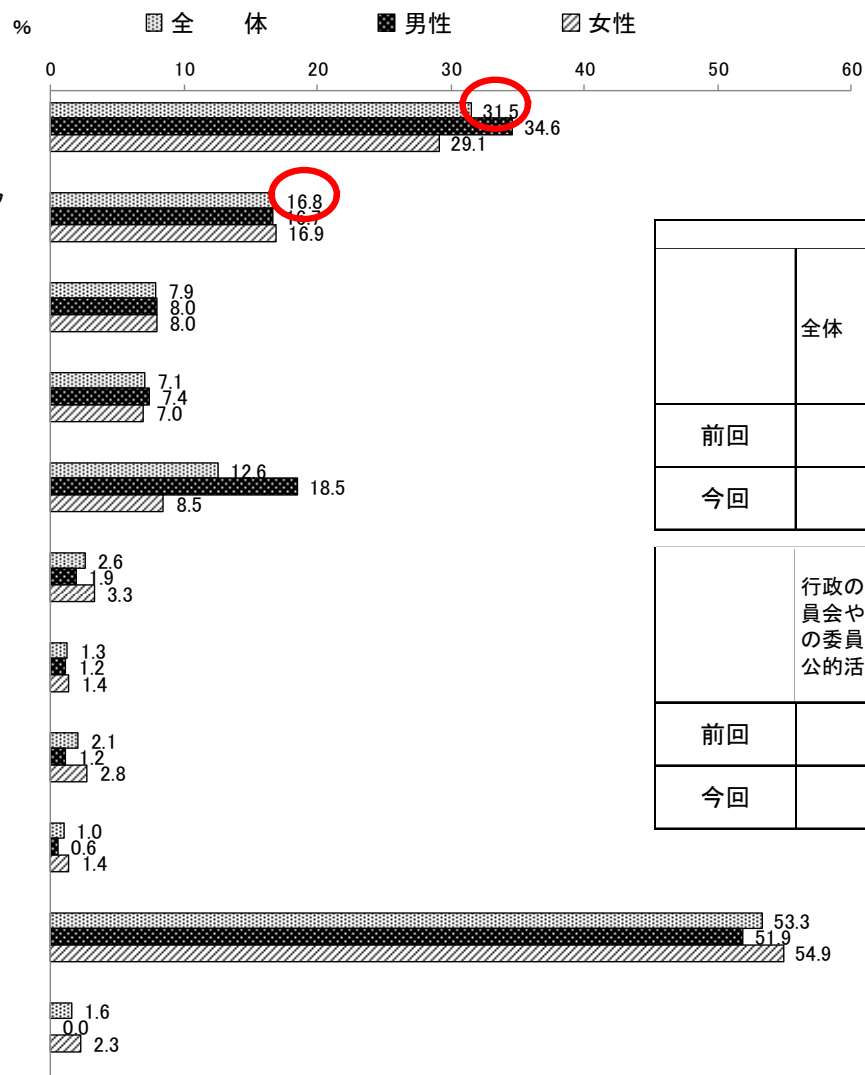


「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会等の活動」が多い

全体では、「特に参加していない」が53.3%と半数を越えている。「自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会等の活動」は31.5%、「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」が16.8%である。

問22 地域活動の参加〔%・複数回答〕

N = 381



問22. 地域活動参加状況

	全体	自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会などの活動	趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動	リサイクル、環境保護、まちづくりなどの活動	福祉・ボランティア・NPOなどの活動	防災・防犯などの地域活動	職業技術や資格の取得に関する活動	ホームステイ受け入れや海外ボランティアなど国際交流活動
前回	399 100.0	111 27.8	94 23.6	28 7.0	35 8.8	60 15.0	10 2.5	5 1.3
今回	381 100.0	120 31.5	64 16.8	30 7.9	27 7.1	48 12.6	10 2.6	5 1.3

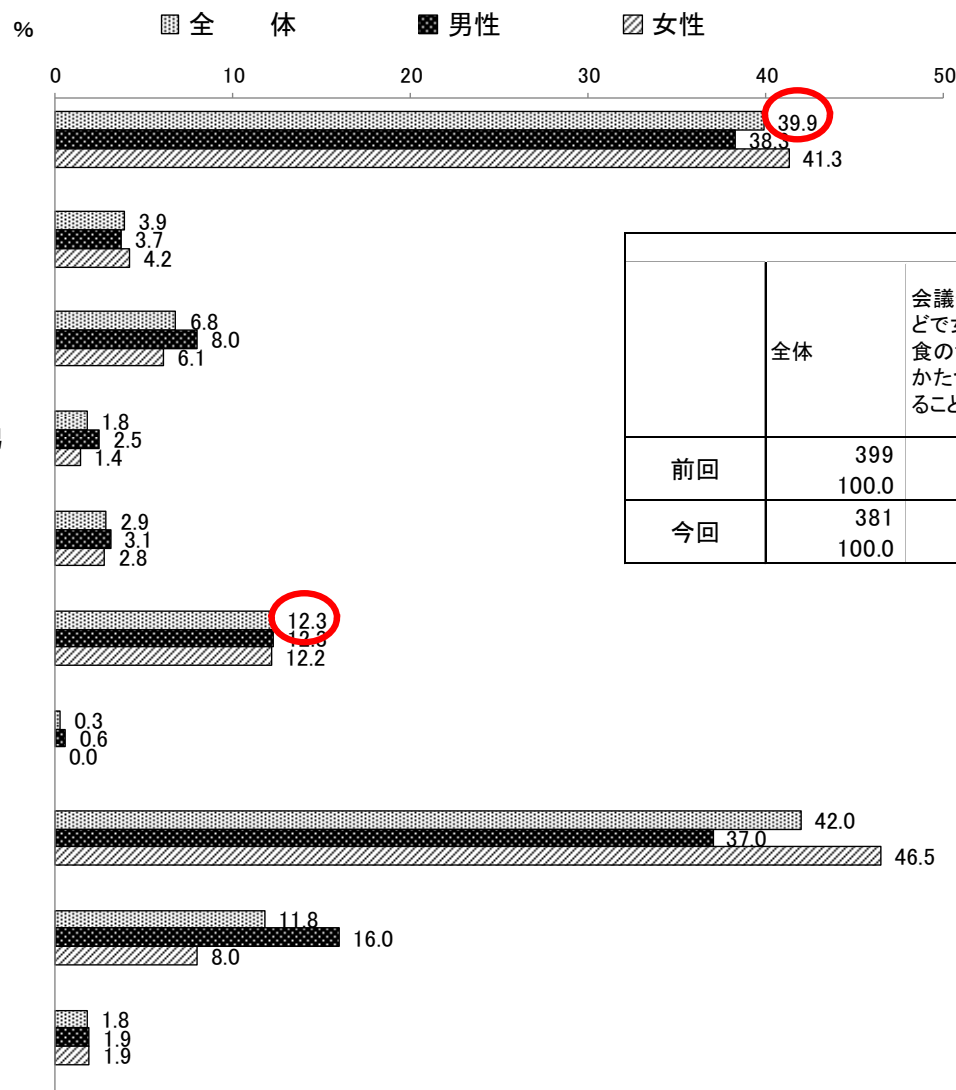
	行政の各種委員会や審議会の委員などの公的活動	その他	特に参加していない	無回答
前回	12 3.0	6 1.5	201 50.4	9 2.3
今回	8 2.1	4 1.0	203 53.3	6 1.6

「会議や行事等で女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」が多い

全体では、「わからない」が42.0%と多く、「会議や行事等で女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」は39.9%、「地域の活動には女性の方が積極的に活発である」が12.3%である。

問23 地域での活動における男女間の格差〔%・複数回答〕

N = 381



問23. 地域活動における男女間の格差

	全体	会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い	会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらにくい	役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい	地域の行事で女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある	地域の活動に女性が少ないため歓迎される	地域の活動には女性の方が積極的に活発である	その他
前回	399 100.0	191 47.9	27 6.8	37 9.3	8 2.0	21 5.3	47 11.8	3 0.8
今回	381 100.0	152 39.9	15 3.9	26 6.8	7 1.8	11 2.9	47 12.3	1 0.3

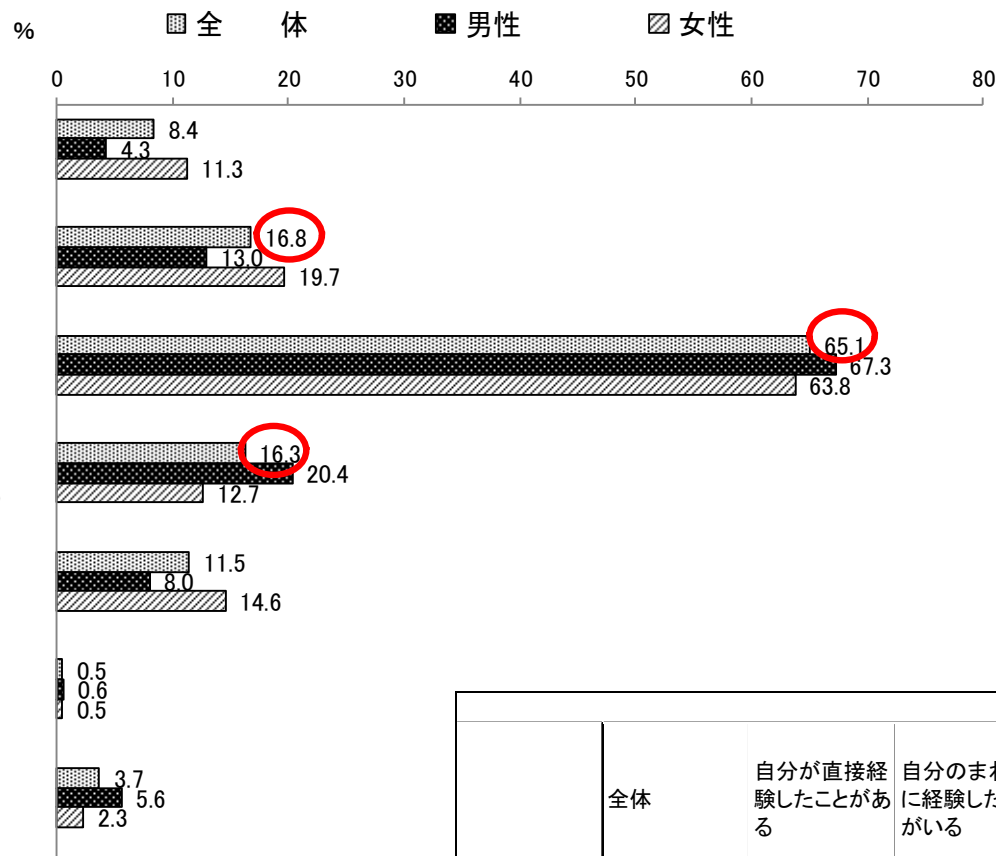
	わからない	特に男女格差はない	無回答
前回	120 30.1	52 13.0	10 2.5
今回	160 42.0	45 11.8	7 1.8

認知度は6割以上、周囲の経験ありも2割弱

全体では、「一般的な知識として知っている」が65.1%と最も多く、「自分のまわりに経験した人がいる」は16.8%、「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」が16.3%である。

N = 381

問25 DVについて経験したり見聞きしたこと[%・複数回答]



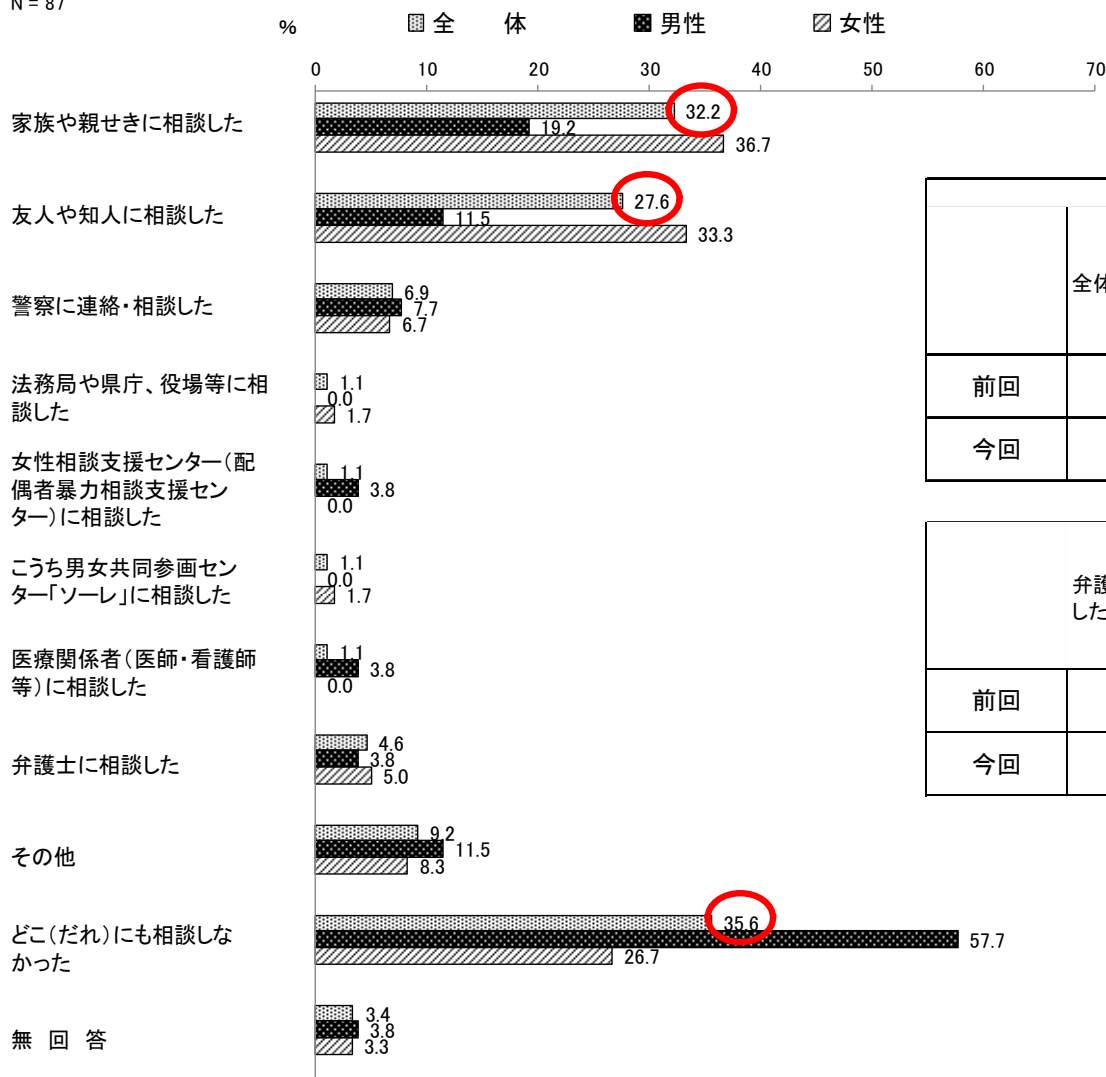
問25. DVの経験								
	全体	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がいる	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある	チラシやパンフレットなどで見ただことがある	ドメスティック・バイオレンス(DV)のことを全く知らなかった	無回答
前回	399 100.0	26 6.5	33 8.3	257 64.4	77 19.3	44 11.0	7 1.8	34 8.5
今回	381 100.0	32 8.4	64 16.8	248 65.1	62 16.3	44 11.5	2 0.5	14 3.7

相談先は「家族」「親せき」「友人」などが多い

全体では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が35.6%と多く、「家族や親せきに相談した」は32.2%、「友人や知人に相談した」が27.6%である。

問26 だれかに打ち明けたり、相談したこと[%・複数回答]

N = 87



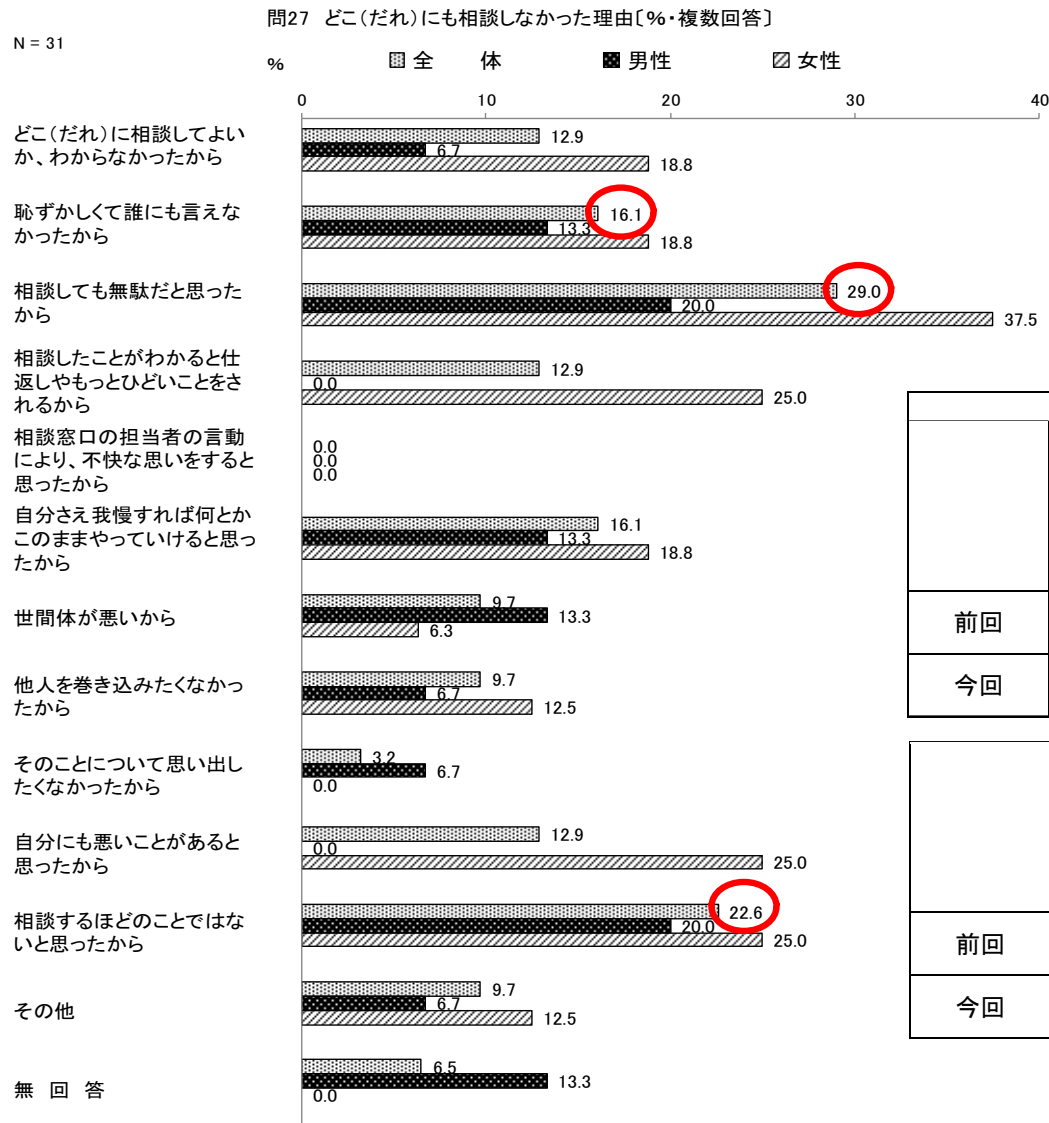
問26. DVについての相談

	全 体	家族や親せきに相談した	友人や知人に相談した	警察に連絡・相談した	法務局や県庁、役場などに相談した	女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)に相談した	こうち男女共同参画センター「ソーレ」に相談した	医療関係者(医師・看護師など)に相談した
前回	399 100.0	20 36.4	18 32.7	8 14.5	1 1.8	3 5.5	1 1.8	0 0.0
今回	381 100.0	28 32.2	24 27.6	6 6.9	1 1.1	1 1.1	1 1.1	1 1.1

	弁護士に相談した	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
前回	2 3.6	2 3.6	14 25.5	1 1.8
今回	4 4.6	8 9.2	31 35.6	3 3.4

「相談しても無駄だと思ったから」が多い

全体では、「相談しても無駄だと思ったから」が29.0%と多く、「相談するほどのことではないと思ったから」は22.6%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が16.1%である。



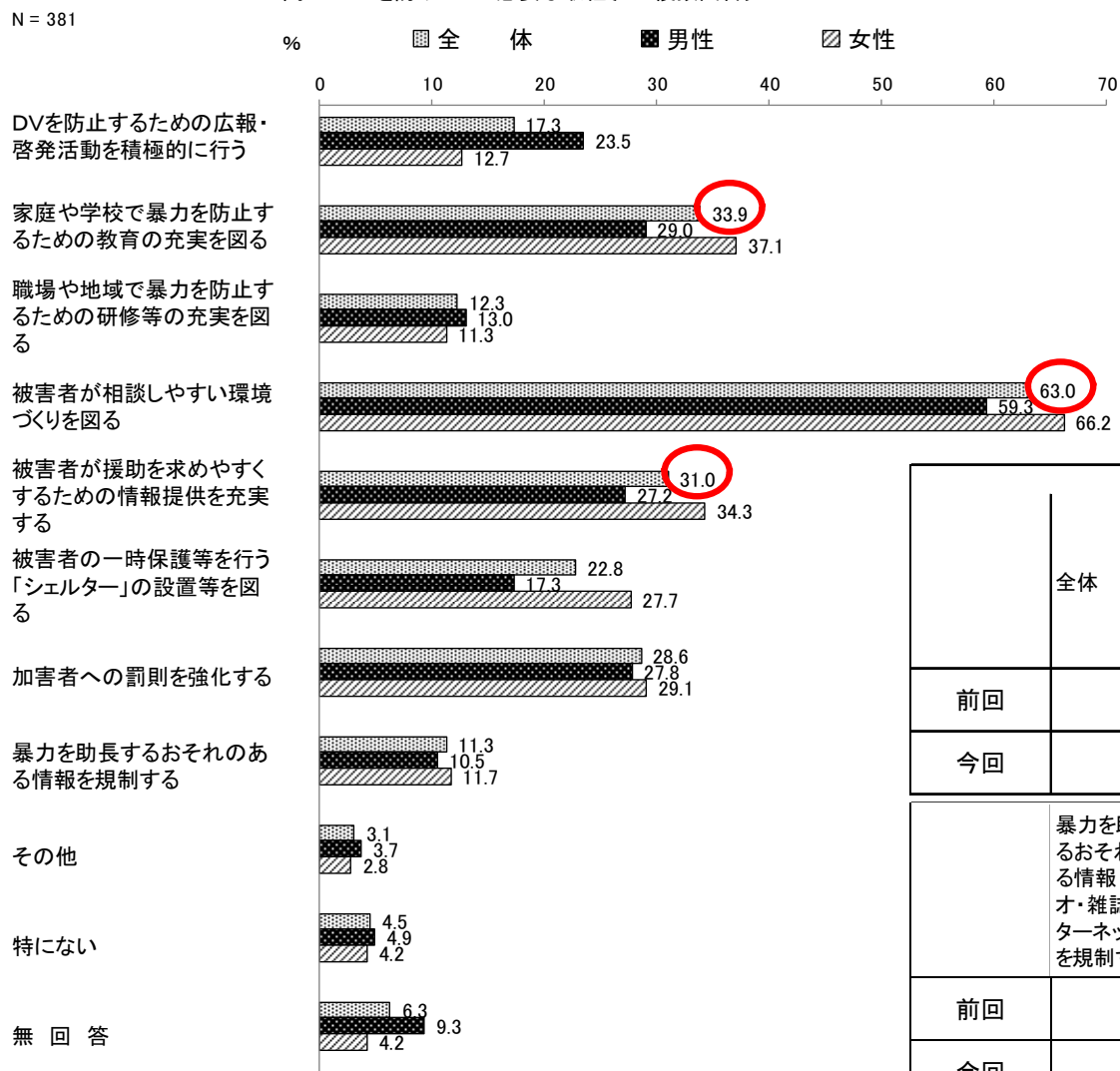
問27. どこ(だれ)にも相談しなかった理由								
	全体	どこ(だれ)に相談してよいか、わからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどいことをされると思ったから	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをと思ったから	自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから	世間体が悪いから
前回	399 100.0	1 7.1	3 21.4	3 21.4	1 7.1	0 0.0	3 21.4	2 14.3
今回	381 100.0	4 12.9	5 16.1	9 29.0	4 12.9	-	5 16.1	3 9.7

	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出したくなかったから	自分にも悪いことがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他
前回	2 14.3	1 7.1	0 0.0	2 14.3	4 28.6
今回	3 9.7	1 3.2	4 12.9	7 22.6	3 9.7

「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」が多い

全体では、「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」が63.0%と最も多く、「家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る」は33.9%、「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する」が31.0%である。

問28 DVを防ぐために必要な取組〔%・複数回答〕



問28. DV防止に必要なと思う取り組み

	全体	ドメスティック・バイオレンスを防止するための広報・啓発活動を積極的に行う	家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る	職場や地域で暴力を防止するための研修などの充実を図る	被害者が相談しやすい環境づくりを図る	被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する	被害者の一時保護などを行う「シェルター」の設置等を図る	加害者への罰則を強化する
前回	399 100.0	79 19.8	154 38.6	37 9.3	230 57.6	108 27.1	85 21.3	115 28.8
今回	381 100.0	66 17.3	129 33.9	47 12.3	240 63.0	118 31.0	87 22.8	109 28.6

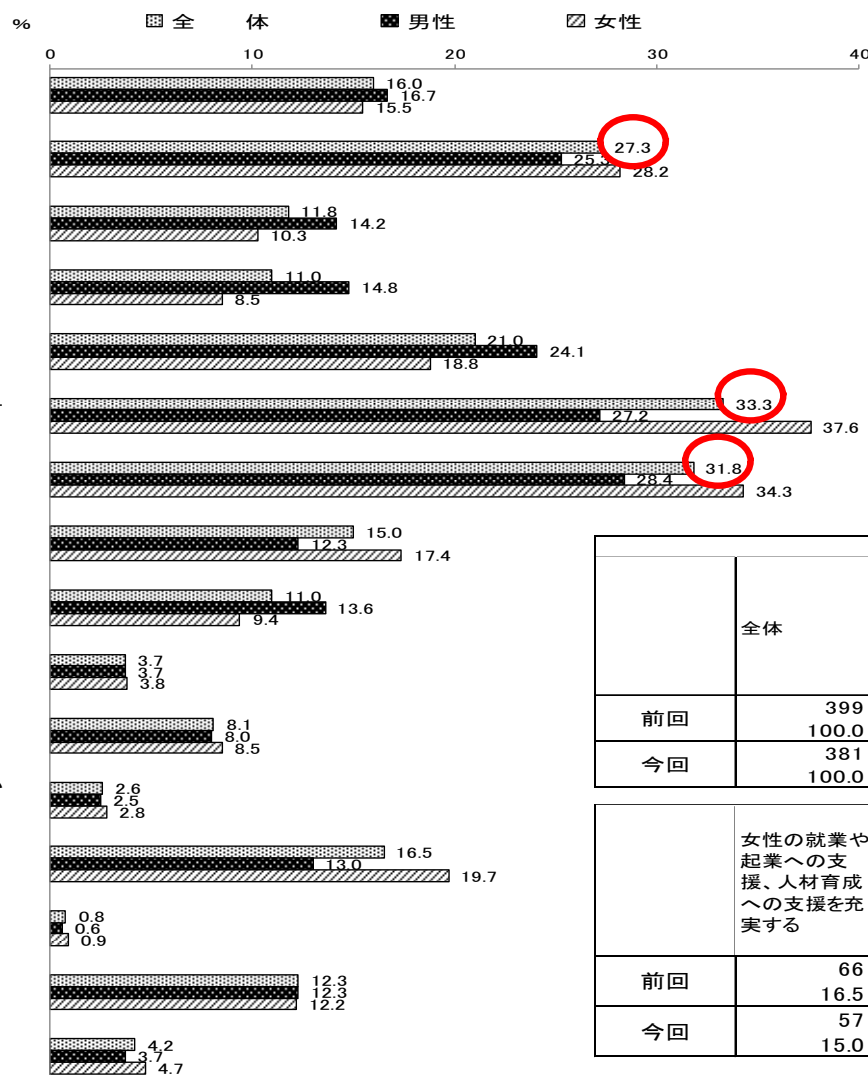
	暴力を助長するおそれのある情報(ビデオ・雑誌やインターネット等)を規制する	その他	特にない	無回答
前回	65 16.3	11 2.8	17 4.3	43 10.8
今回	43 11.3	12 3.1	17 4.5	24 6.3

「保育など子育て支援のサービスを充実する」が多い

全体では、「保育など子育て支援のサービスを充実する」が33.3%と多く、「介護など高齢者を支援するサービスを充実する」が31.8%、「学校教育において男女共同参画や人権の尊重についての教育を充実」が27.3%と続いている。

N = 381

問31 男女共同参画において町が力を入れること〔%・複数回答〕



問31. 今後、佐川町はどのようなことに力を入れていくべきこと

	全体	男女共同参画や人権の尊重について啓発の推進や学習機会の充実を図る	学校教育において男女共同参画や人権の尊重についての教育を充実する	町職員の管理職や審議会の委員などに女性の積極的な登用を図る	男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援などを検討する	働く場での男女格差をなくすよう事業主などに対して働きかける	保育、家事、介護などの公的サービスを充実する	介護など高齢者を支援するサービスを充実する
前回	399 100.0	81 20.3	150 37.6	69 17.3	54 13.5	80 20.1	165 41.4	-
今回	381 100.0	61 16.0	104 27.3	45 11.8	42 11.0	80 21.0	127 33.3	121 31.8

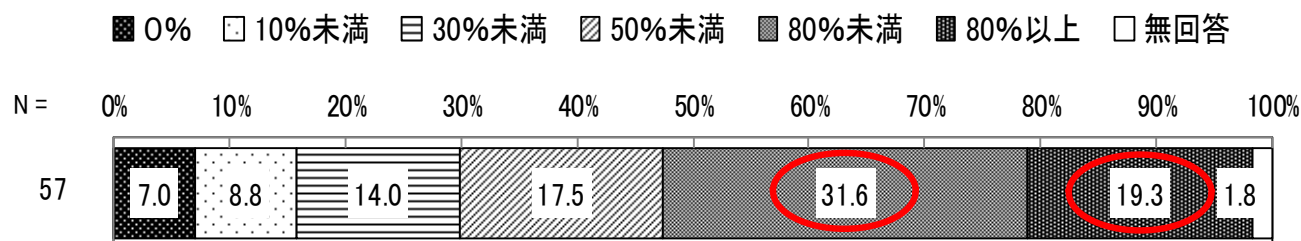
	女性の就業や起業への支援、人材育成への支援を充実する	男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動を促進する	男女共同参画の視点を取り入れた防災対策を推進する	男女共同参画についての相談窓口の充実や活動場所の整備を図る	男女共同参画に視点を置いた国際的な交流・協力を推進する	男女の心身の健康づくりの推進を図る	その他	わからない
前回	66 16.5	44 11.0	19 4.8	28 7.0	10 2.5	62 15.5	7 1.8	38 9.5
今回	57 15.0	42 11.0	14 3.7	31 8.1	10 2.6	63 16.5	3 0.8	47 12.3

『トイレが男女別』が30%以上

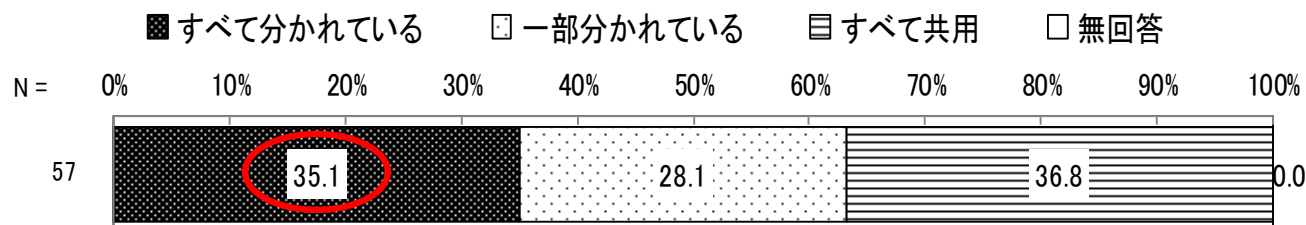
女性従業員の割合は、「80%未満」が31.6%と最も多く、ついで「80%以上」（19.3%）、「50%未満」（17.5%）、「30%未満」（14.0%）と続く。「0%」は7.0%となっている。

トイレの男女別は、「すべて共用」が36.8%と多く、ついで「すべて分かれている」（35.1%）、「一部分かかれている」（28.1%）と続く。

問4 女性従業員の占める割合〔%〕



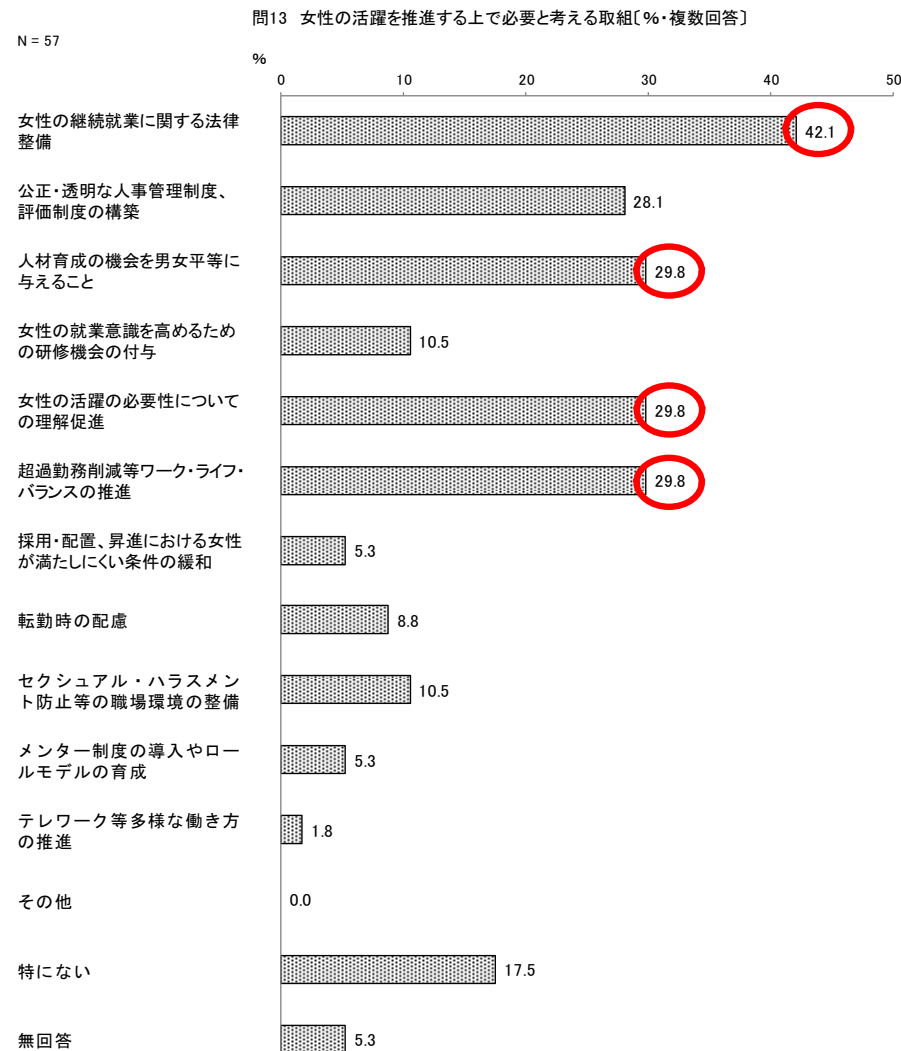
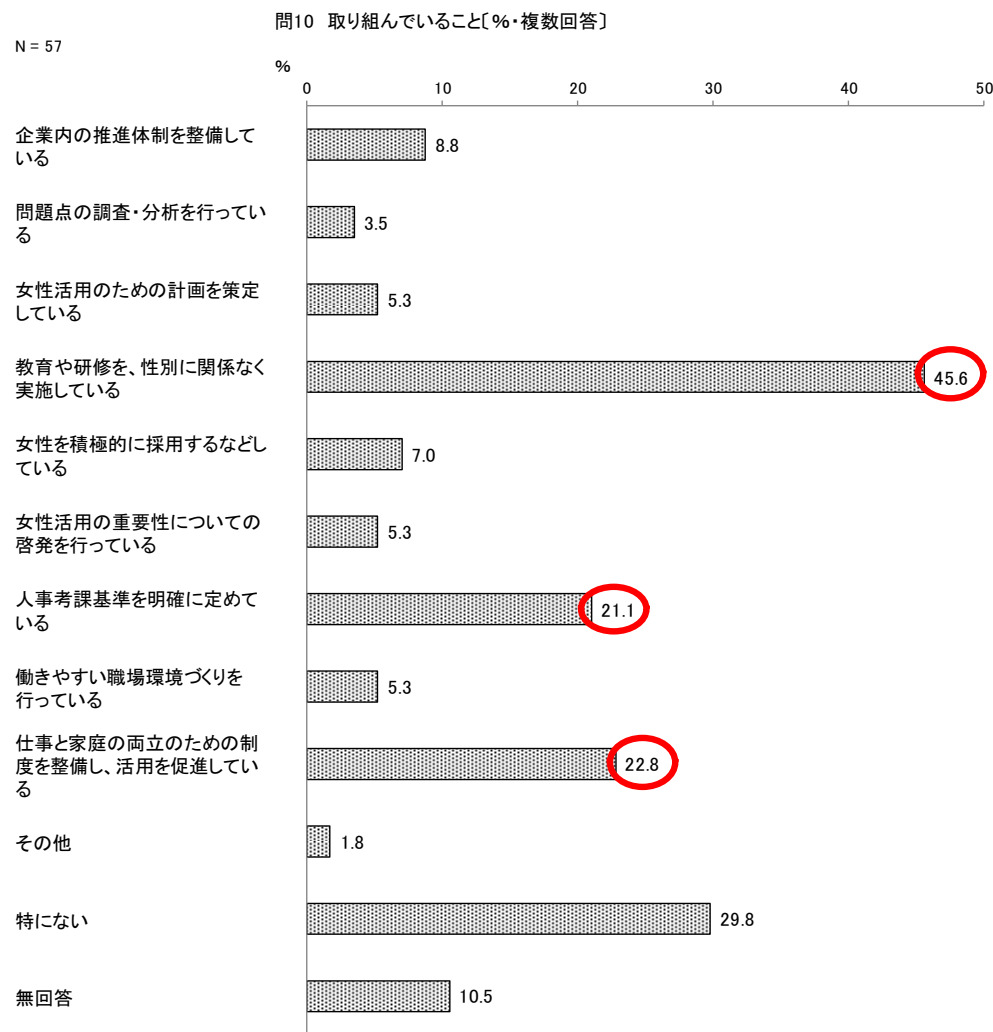
問8 事業所内のトイレが男女別となっている〔%〕



「教育や研修を、性別に関係なく実施している」が多い

事業所の取組は、「教育や研修を、性別に関係なく実施している」が45.6%、「仕事と家庭の両立のための制度を整備し、活用を促進している」（22.8%）、「人事考課基準を明確に定めている」（21.1%）と続く。

必要な取組は、「女性の継続就業に関する法律整備」が42.1%、「人材育成の機会を男女平等に与えること」「女性の活躍の必要性についての理解促進」「超過勤務削減等ワーク・ライフ・バランスの推進」（いずれも29.8%）と続く。

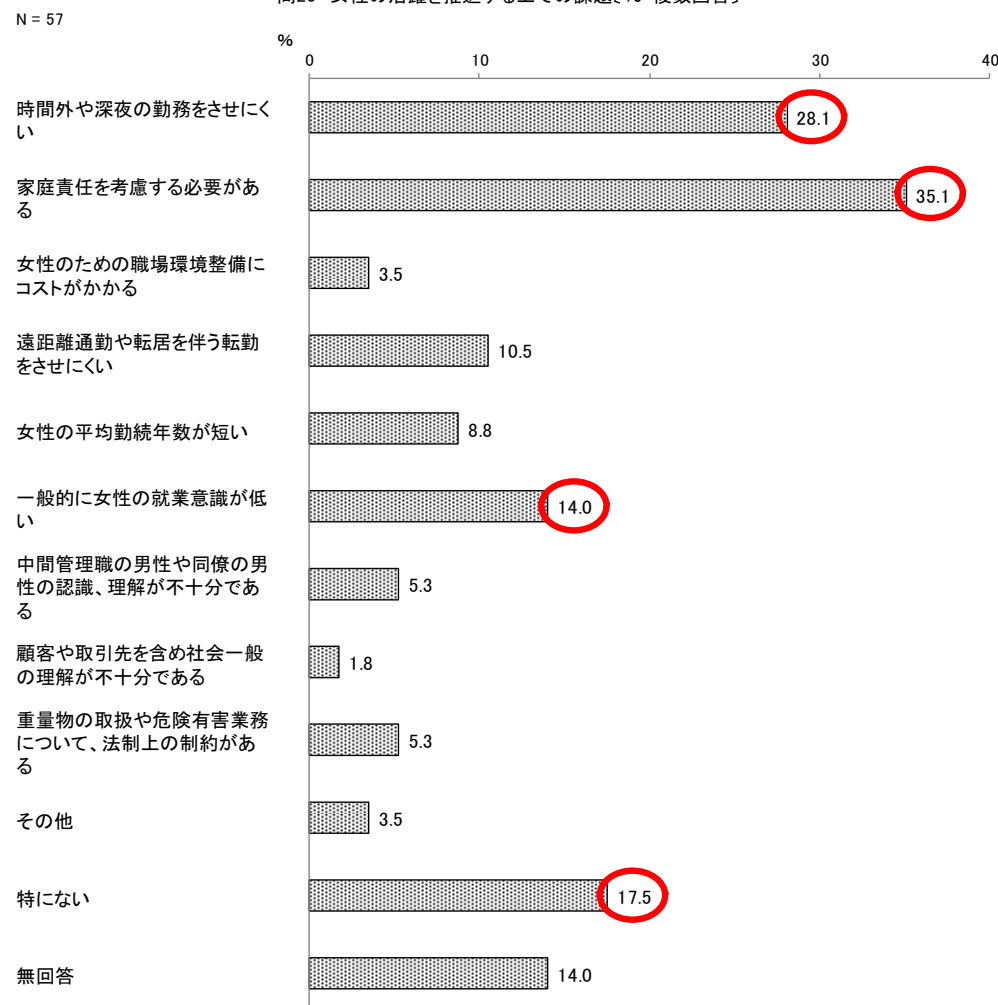


「家庭責任を考慮する必要がある」が多い

課題は、「家庭責任を考慮する必要がある」が35.1%と最も多く、「時間外や深夜の勤務をさせにくい」(28.1%)、「特にない」(17.5%)、「一般的に女性の就業意識が低い」(14.0%)と続く。

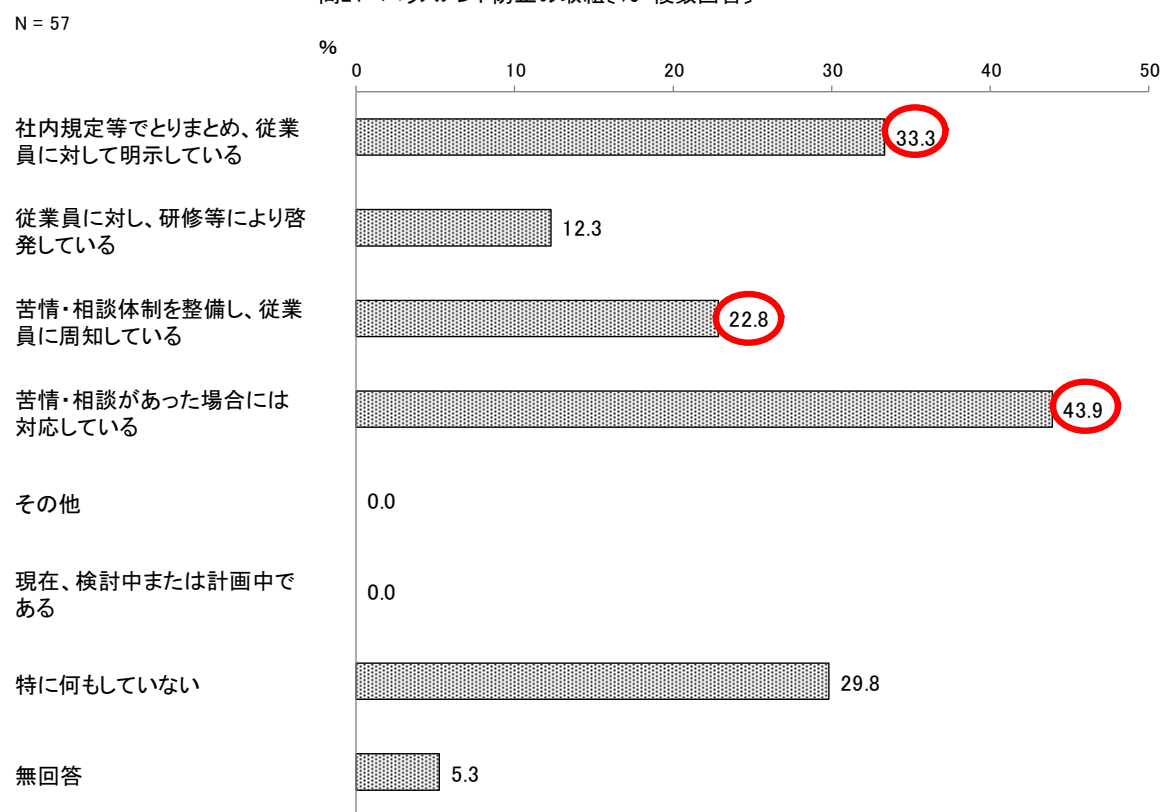
防止策は、「苦情・相談があった場合には対応している」が43.9%と最も多く、「社内規定等でとりまとめ、従業員に対して明示している」(33.3%)と続く。

問20 女性の活躍を推進する上での課題[%・複数回答]



N = 57

問21 ハラスメント防止の取組[%・複数回答]

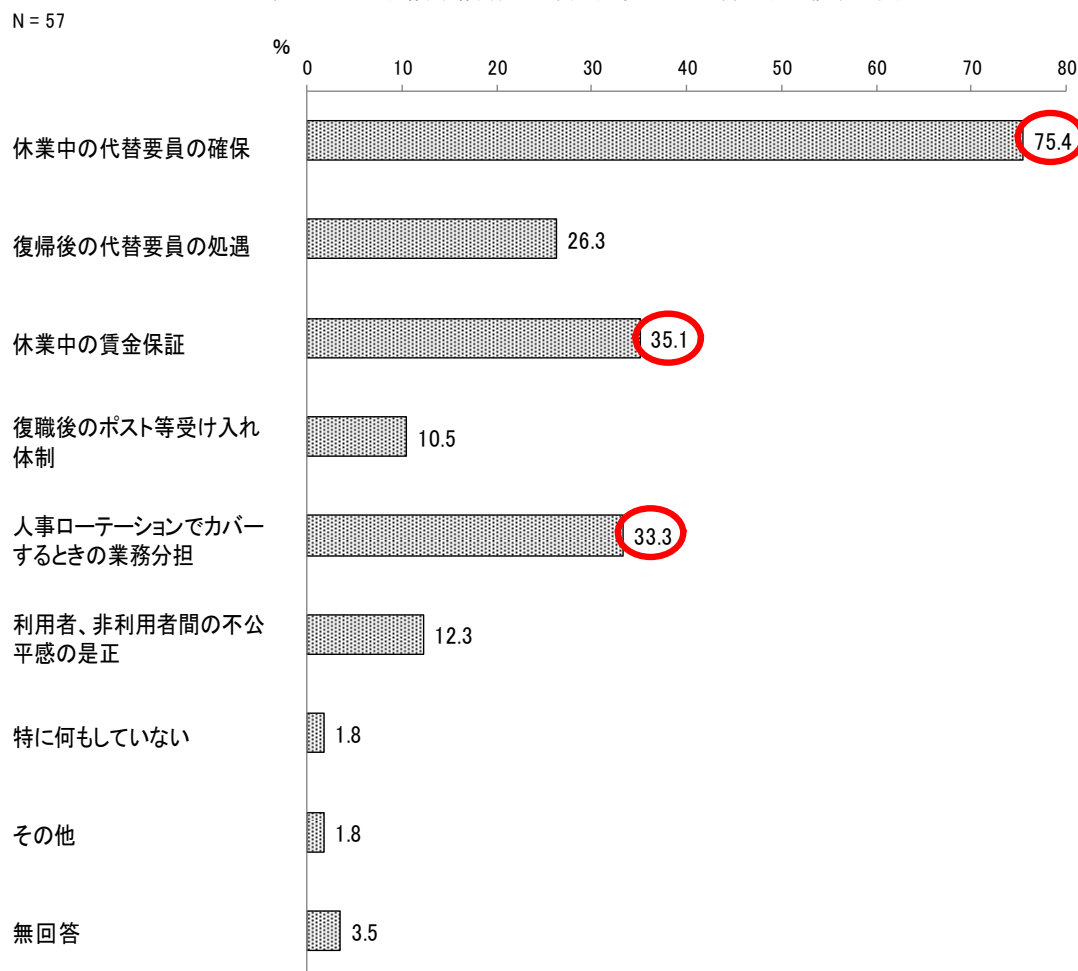


「保育、家事、介護等の公的サービスを充実する」が多い

各休業制度への課題は、「休業中の代替要員の確保」が75.4%と最も多く、「休業中の賃金保証」（35.1%）、「人事ローテーションでカバーするときの業務分担」（33.3%）と続く。

佐川町の課題は、「保育、家事、介護等の公的サービスを充実する」が54.4%、「町職員の管理職や審議会の委員等に女性の積極的な登用を図る」「学校教育において教育を充実する」「男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援等を検討する」と続く。

問22 育児・介護(看護)休業制度の定着に向けた課題〔%・複数回答〕



N = 57

問23 男女共同参画を積極的に進めるために力を入れていくこと〔%・複数回答〕

